

金 光 学 園

やっ なみ

2017.12





体育会

ほつま祭



書道部

中高あわせて21名の部員が所属し、古典の臨書や創作活動に勤しんでいる。

書道部は「コンクールで賞をとる」、「普段の練習の成果を地域貢献に生かす」を目標として活動している。初めて書道を始めた生徒も先輩たちと活動の時間を共有する中で、大きな作品に挑戦し、創作意欲を燃やしていく。文字のバランス、とめはねはらしいの基本、余白の取り方などを学び、成田山や高野山、創玄競書大会など多くの大会に出品していく。出品することで精進したいという動機づけにもなる。

また、身につけた書道という表現技法を地域貢献に生かすことにも取り組んでいる。これまでに笠岡の古民家再生のプロジェクトに参加し、書道パフォーマンス「かきつばた」を披露したり、福山のイトーヨーカ堂で行われた震災復興チャリティイベントでは「復興」というテーマでパフォーマンスを披露したりした。また校内においてもほつま祭のK.O.P.のオープニングを担当したり、海外からの留学生との書道交流を経験したりしている。

書道は「書く」という作業を通して、文字がどう扱われてきたか、文字を書くことで何を伝えてきたのかを学ぶことができる。「書く」ことは自己を表現することにもなり、だれかの気持ちに寄り添って考えることにもなる。これからも書道の精神を部員一同、磨き続けていきたい。



卓球部

現在、中高合わせて約30名の部員で活動をしている。活動場所である小体育館は70年近い歴史があり、過去には国体のウエイトリフティンク競技の会場にもなった。最大15台のコートで練習できるスペースが確保でき、卓球専用として使用できる体育館としては県内でも恵まれた練習環境である。

卓球には団体戦と個人戦の種目があり、団体戦では出場した選手の1点1点がチームの勝利につながるため、チームワークが必要である。そのため年間を通じて県内外の大会に参加し、多くの経験を重ねながら団結力を高めている。また、個人戦では全員が出場できる大会も多いため、一人ひとりが課題を持って毎日の練習に励んでいる。

中学卓球部では備南西地区予選として始まった平成18年より現在までの12年間で、男子団体においては県大会へ連続24回出場している。また、女子団体でも平成22年から平成27年までの6年間で連続11回の県大会出場を果たした。

近年の高校卓球部の活躍もめざましく、平成25年から平成29年の5年間で男子団体で7回、女子団体で8回の中国大会出場を果たしている。平成27年には男子団体が中国大会通算30回目の出場となり、中国高校体育連盟より表彰された。

部活動を通じて培ってきた体力や集中力は学習面においても活かされ、国公立大学医学部をはじめ、難関大学へと進学した卒業生も数多い。

リオ五輪での日本選手の活躍により、空前の卓球ブームに沸いている現在、金光学園卓球部もより一層飛躍できるよう日々精進していきたい。



部活動紹介

いまをたいせつに

2017年も師走を迎えました。月日が経つのは本当に早く感じます。年を重ねると時間がたつのが早くなる、と聞いたことがあります。これは生きた年数によって一年の長さの比率が小さくなり、大人になるにつれどんどん時間が短く感じられるようになると、「ジャーネーの法則」によるものだそうです。

年のせいなのか？ と思ひ、子ども達に訪ねてみると「時間経つものすごく早いよ！」と。私が子どもの頃は1時間の待ち時間があるものすごく待ち遠しかったものです。何故？ もしかして地球の自転が早くなったのでしょうか？

そういえば、今は昔なかった携帯電話という魔法の小箱があるのです。SNSでのやり取りやゲームをしていれば1時間なんてあっという間です。自分身メールやラインをチェックし送られてくるニュースを次々と読んでいくと、知らない間に時間が過ぎていきます。

今年4月の総会の講演会で弓削田先生が歌ってくださった「ママのスマホになりたい」はいつもスマホばかり見ているお母さんへの子どもたちの気持ちをスバリ表していて、ハッとさせられました。ある保護者の方は、「息子のスマホになりたい」とおっしゃられ、高校生にもなる歌の内容が逆転してくることに同感でした。

小さいころ高熱ばかり出し入院を繰り返した長男は高校1年生。6年前、仲の良かった小学校の友達と離れ、電車で通うことに大きな不安をもって入学した長女はもうすぐ卒業を迎えます。あと数ヶ月で巣立っていくと思うと、どんどん過ぎていく時がとても惜しく感じられます。周囲に溢れかえる情報に奪われている時間を、子ども達の成長をきちんと見届ける時間になりたいと思うこの頃です。

金光学園では日々人として大切な多くのことを親子ともに学ばせていただいています。だからこそ、いまの大切さにも気付かせていただけたのだと思います。今あるこの瞬間に心から感謝をしながら一日一日をたいせつに過ごしてまいりたいと思います。

(金光学園やつなみ保護者会副会長)

遠藤 かおり

目次

巻頭言.....	1
金光学園創立123年記念式道(19).....	2
メタセコイヤ.....	10
活躍おめでとう.....	12
活躍する卒業生 石原 辰彦.....	13
活躍する卒業生 石原 辰彦.....	16
会報.....	18
やつなみ保護者会のページ.....	20
友愛セールご協力の御礼.....	22
韓国 春川女子高等学校第8回姉妹校交流.....	23
東京研修.....	26
芸術鑑賞会「英語落語」感想文.....	28
ほつま祭.....	30
体育会.....	34
高2修学旅行.....	38
Konko Gakuen English Camp2017.....	50
音楽部吹奏楽団訪米.....	52
ある日のホームルーム.....	54
生徒入賞作品.....	56
探究授業報告.....	60
生徒会活動.....	61
学園だより.....	73
教室の窓から・編集後記.....	76

金光学園創立123年記念式



金光学園創立123年記念式が、11月16日、厳かに挙行された。晴天の下、朝8時15分、校長と生徒代表（高3戸田勝己君、中3浅原果歩さん）が本部広前に参拝し、教主金光様にお礼のお届けをした。8時35分、全校生徒、教職員揃って本部会堂前より参拝し、その後、教団墓地と初代校長の頌徳碑を巡拝して帰校した。ほつま体育館に、24名のご来賓をお迎えし、金光学園中学・高等学校の生徒1162名、教職員が一堂に会し、10時に音楽部吹奏楽団と音楽部コーラスによる「神人の栄光」の演奏で祭事が始まった。まず、感謝祭が行われ、学校法人金光学園理事長の「お礼・お願いの言葉」に始まり、各代表より玉串が奉奠された。式典では、国歌斉唱の後、25年勤続の有馬佳澄教諭、中村耕太教諭、守分俊浩教諭がそれぞれ表彰を受けた。続いて校長式辞、金光教務総長祝辞、生徒代表



の所願表明の後、学園歌斉唱で式典は締めくくられた。休憩の後、11時30分から萩原邦章氏（萩原工業株式会社代表取締役会長・高24回卒）より記念講演をいただいた。演題は「目標を持つ」。社会人、国際人としての生き方を、ユーモアを交え、後輩達のために熱く語られた。その後、13時20分ごろほつま体育館で全教職員の記念写真を撮影した。

式辞

校長 金光 道晴



立冬も過ぎ、11月も半ばを迎えています。今朝は晩秋というより、初冬の寒さを感じる朝となりました。先程は、創立記念式に先立ち、生徒・教職員そろって金光教本部広前に御礼の参拝をさせていただきました。木綿崎山の教団墓地や、初代校長佐藤範雄先生の頌徳碑を巡拝して、先ほど帰校してまいりました。身も心も引き締まる気持ちで、こうして金光学園創立123年の記念式に臨ませていただいております。

ご来賓の皆様には本日は公私ともご多用の中、ご臨席を賜り誠にありがとうございます。

ございます。心から御礼申し上げます。さて、この創立記念式では、毎年学園の歴史や卒業生などを取り上げてお話ししてきましたが、今日は先週、81歳で亡くなられた藤井世根子さんという、私が高3の卒業生の方の話をさせていただきます。高3の宗教の時間に一部のクラスではお話しましたが、第6回卒業というところ、現高3の皆さんは、来春には金光学園第70回の卒業生になるわけですから、高3の皆さんからいうと64年上の先輩に当たる方です。

もともと金光学園は昭和22年（西暦で言う1947年）までは男子だけで女子はいませんでした。昭和23年から女子が入学するようになったのですが、その女子の第1期生の方です。今日もご臨席いただいている前校長の佐藤元信先生や、同窓会の茅原喜久子副会長さんは同級生になられます。

その方のご主人も、3人の子供さんも家族全員が学園の卒業生でありましたし、金光教の方でもあられましたが、当時御次男が高2に在学していたので保護

者でもありました。お住まいも今朝皆さんと参拝した境内近くに長年住んでおられ、私も様々なご縁があり、先週のお通夜（金光教では終祭と言いますが）に続いて翌日の告別式にも、高校6回の卒業生の方々と共に、参列させていただきました。

実はこの藤井世根子さんという方は、平成3年の1月14日の夜遅く、近くの親戚の家に行った帰り道、町内の国道2号線を横断していた時に、大型トレーラーに接触され、左足を切断されるといふ大きな事故に会われた方です。場所は先程参拝した初代校長の頌徳碑の下を通っているトンネルの西側の跨線橋の下であります。トラックはそのまま走り去ってしまい、ひき逃げ事故として大きく取り上げられました。

それに、この方はRHマイナスという二人に一人しかいないという特別な血液型で、大量の出血をしておりましたので、輸血が必要でありました。しかし、その時県内に保存血液がなく、山陽放送のラジオの深夜放送で緊急の献血を呼びかけました。

その放送を聞いて駆けつけてくださった



た方や、連絡をしてきてくださった方がおられたり、学園の卒業生で京都の大学の生の方がRHマイナスAB型だということが分かり、朝一番の新幹線で来ていただけのようになったり、多くの温かい善意の方々から

らの申し出が届けられました。結果的には香川県や徳島県から血液が緊急搬送され、何とか輸血でき、左足の切断ということが出来たのでありますが、大変な事故でありました。

手術をされたお医者さんは、ご主人や家族の方に、本人の意識が戻ってから足を失ったということは本人に伝えないように、回復に差しさわりのあるからと

言われたそうであります。

本人は事故直後意識を失う前に、左足はもちろんですが、右の足も骨折していたので、立とうとして立てなかったし、手で触つたらそこに足がなかったたので、直感的に両足を失ってしまったと思っただけであります。

ようやく9時間後に意識が回復してからの第一声は「足がある？」という言葉でした。ご主人が答えてに困っていると、右足を残してもらったことを神様に感謝し、喜ばせていただいたというのであります。

金光教の教祖様は「おかげは和賀心にあり」とみ教えくださっています。「和」は平和の和で和らく、「賀」は賀正の賀で喜ぶと書きます。「おかげは和らぎ喜ぶ心に生まれる」とおっしゃっておられますが、この方は足を失って嘆き悲しむのではなく、右足を残してもらったことにお礼を言われたのであります。

事故後4か月経って、ご主人が山陽新聞にお礼の意味も込めて書かれた六段の記事が掲載されました。その新聞記事の一部を紹介させていただきます。標題は「苦難は心を耕すチャンス 積極的な意

味あいを見出せ」というものでした。

《新聞記事》

「私の妻が交通事故で左足を切断する重傷を負い、くしくも命を取りとめて四カ月になる。寒い冬もいつの間にか過ぎて天地の命が輝く新緑の季節となり、現在倉敷市の川崎医大付属病院で治療とリハビリを続けている。人生いつ何が起るかわからない。嬉しいこともあり、つらいこともある。しかし、たとえどんな苦難が起ころうとも、それを正面から受け止めることができたら、苦難の中にも喜びを見出すことができるはずである。妻の事故は本紙1月16日の朝刊15面に、四段見出しで大きく報じられた。『AB型RHマイナス血液、香川、徳島から緊急輸送。金光でひき逃げされた重症の女性、危うく一命助かる』と。……人生における苦難はさまざまである。しかし、与えられた苦難は単にマイナスを意味するだけでは決していない。苦難の事実に積極的な意味を見出すことができれば、苦難はプラスに転化する。苦難は心を耕すチャンスであり、心豊かな人生の扉を開く鍵であると思う。金光教祖は

「難はみかげ」と教えている。去る1月15日深夜、早朝から昼にかけて輸血にご協力くださった方々に、紙面をかりて心から御礼申し上げます」というものでした。

先週のこの方の告別式では、遺族代表として挨拶をされた息子さんは、お母さんに代わって、心からの感謝の気持ちを涙ながらに話されていました。私はその話を聞いて、同じように足を失われた佐藤真海さんのことが思い出されました。

佐藤真海さんは3年前の創立120年の記念式に来ていただいたのですが、覚えているでしょうか。中学生は入学前だったのでわからないと思いますが、学園中からの高校生はよく覚えていてと思います。

骨肉腫という病気で20歳の時、右足を失った方です。その後、アテネ、北京、ロンドンと走り幅跳びの選手として三度のパラリンピックに出場した方です。そして東京オリンピックパラリンピックの招致のプレゼンテーションでは「私にとって大切なものは失われたものではなく、今あるものである」と話され、全世界に大きな感動を届けてくれ

た方です。

彼女は3年前この体育館のこの場所で「夢を跳ぶ」と題したお話を、終始笑顔で話してくれました。「神様はその人に乗り越えられない試練は与えない」というお母様の言葉が励みになったと話されました。あの時は結婚されたばかりでしたが、現在、一児の母となり、谷真海という名でトライアスロンへ転向し、東京パラリンピックを目指しておられます。

私たちは日常生活の中で、しんどいや辛いことに出会うと、ついついその苦しみから逃れ、楽になりたいと思ってしまう。そして、自分で超えられそうにない困難なことを、自分自身でしっかりと受け止めることなく、人のせいにして、社会のせいにしてしまいがちです。

本当は自分自身の努力で解決し、乗り越えていかなければならないことでありますが、諦めたり、逃げたりしてしまっていることが多いのであります。

こういう時こそ「おかげは和賀心にあり」であります。怒ったり、恨んだり、悲しんだり、心配したりする心の中には、決して良きものは生まれてきません。



「和らぎ喜ぶ『和賀心』を大切に、ここからの日々の学園生活を送って欲しいと思います。最後に学園の合言葉を申し上げて、式辞とさせていただきます。「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」

金光教教務総長祝辞

西川 良典

本日は、創立123周年となる記念式を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

本学園の創立を振り返りますと、初代校長の佐藤範雄先生が、金光教の教祖である金光大神様にまみえられたことに始まります。先生は初めて教祖様のもとに参拝された時、「人を助ける身になれ」とのお言葉を受けられました。それ以来、足繁く教祖のもとに参拝される中で、次第に「人が助かるための学校」「世と人のお役に立つ人材が育つための学校」の必要性を感じられるようになりました。

そして、明治27年11月29日、本学園の前身であります神道金光教会学問所が創設され、金光教の教えをもとに「学・徳・体」一体の全人教育を目指し、「心の教育を土台にした人間教育」という教育方針のもとに学校教育が進められ、本日ここに、創立123年の記念式を迎えられましたことは、私どもにとりまして、まことに感慨深いことでございます。

さて、金光教祖は「天が下の者はみな、神の氏子である。天が下に他人はない」

「人の身が大事か、わが身が大事か。人もわが身もみな人」と教えられました。

私たちは一人ひとり個性をもち、喜びや悲しみ、それぞれの楽しみや苦しみを持ちながら生きています。そのような違いはありましても、みな等しく、天地の親神様からのいのちを授かり、限りない慈しみを注がれ、生かされている神のいとし子同士であります。そして、そのような神様のお働きの中で、たくさんの人や物のお世話になって生きています。

本学園の「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」という合言葉にはそうした神のいとし子として、限らない天地の恩恵に感謝し、互いのいのちを尊び合い、共に助け合って生きていってほしい、という教祖の願い、神様のお心が込められているのだと思えます。全校挙げて、合言葉の実践に努められておりますことはまことにありがたいと、素晴らしいことであり、卒業後も人生の指針として大切にして頂きたいと願っております。

最後になりましたが、本日、永年勤続で表彰を受けられました方々は、それぞれの持ち場にあつて、実意に職務



に尽くしてこられました。そのご努力に対し、心から敬意を表しますとともに、これからも元気に勤められますようお願い申し上げます。また、法人関係の方々をはじめ、校長先生、教職員の皆さまには、今日まで学校の運営・教育の上には、ひとかたならぬご尽力をいただいておりますことをあらためて厚く御礼申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。(教務理事 田淵 美賀雄 代読)



所願表明

生徒代表 藤澤 友菓



金光学園は、今年創立123年を迎えました。123年という長い歴史の中で、多くの先生方、先輩方の努力により、この金光学園の良き伝統が築き上げられてきました。本日の創立記念式にあたって、私たちは改めて先輩方から受け継いだこの歴史ある金光学園で過ごせることに感謝をし、これからの日々を大切に過ごしていくことを決意したいと思います。そして、建学の精神に掲げられている世のお役に立つ人となるため、一人ひとりが自覚を持って行動していかなければならないと実感しております。

さて、今年の10月6日に、ノーベル平

和賞を国際NGO核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）が受賞したことは、皆さんの記憶にも新しいことだと思えます。ICANは各国政府に条約への賛同を働きかけ、核兵器の非人道性を訴えてきました。そして、今年7月7日の国連会議で核兵器禁止条約が採択されたのです。私は被爆された方々の平和に向けての努力と訴えが世界の人々に届いた瞬間だと思いました。

そのICANの顔として広島での被爆体験を世界で語り続けてきたサロー節子さんはインタビューで次のようにおっしゃっています。「昔は平和運動という髪が白くなった人とか、戦争を体験して苦しみがかわつていてという人が出てきた。しかし、今はそうした体験はないけれど、こんなに恐ろしい世界に生きていくというのを自覚した若者たちがたくさん参加している。だから、非常に希望を持っています。ホープフルです」私は、この言葉に深い感銘を受けました。ICANの中心メンバーは20代、30代の若者たちです。国を超えて繋がり、知恵と力を出し合い、若者たちが世界に新しい風をもたらしている事実には私にとて

お届け

金光様、日々ご祈念いただき有難うございます。
私たち金光学園中学・高等学校は、今年創立123年を迎えさせて
いただきました。

在校生一同、本日の創立記念式を心からお祝いさせて頂くと
もに、学園生全員がこれからの金光学園発展に向けて、より一層
努力していきますよう決意を新たにしたいと思います。

特に高校3年生におきましては、受験を目前に控え、追い込み
の時期に入っております。全学年の生徒ひとりひとりが、健康で
それぞれの目標を達成することができまますよう、どうぞ神様にお
取次ぎください。

今後ともお祈り添えをくださいますよう、よろしくお願い申し
上げます。
有難うございました。

生徒代表 戸田 勝己
浅原 果歩

勇気を貰いました。
ノーベル平和賞は核の問題が、特殊な
誰かの問題ではなく、地球上の全ての
人々の問題であるという警鐘だと思いま
す。唯一の被爆国として、核廃絶と安全
保障の厳しい現実のはざま、日本政府
や市民がどのような議論をくり広げてい

くのか、各国から注目されています。日
本人である私たち一人一人がしっかりと考
え、答えをさがさなければならぬ問題
であると思います。
昨年、公職選挙法の改正で選挙権が18
歳以上に引き下げられました。今年10月
に行われた衆議院議員総選挙では、私は

せてきました。実際に最後まで前向きに
強い気持ちを持って諦めずプレーし勝つ
ことが出来た試合もあります。この先、
勉強に限らず、つらいことや苦しいこと
もあるかもしれませんが、そんなときこ
そ、何事も最後まで諦めず、ピンチをチャ
ンスに変える前向きさを大切にしたいと
思います。また、私たちが日々の生活を
何不自由なく過ごせるのは、周りの方々
のたくさん支えがあるからだと思いま

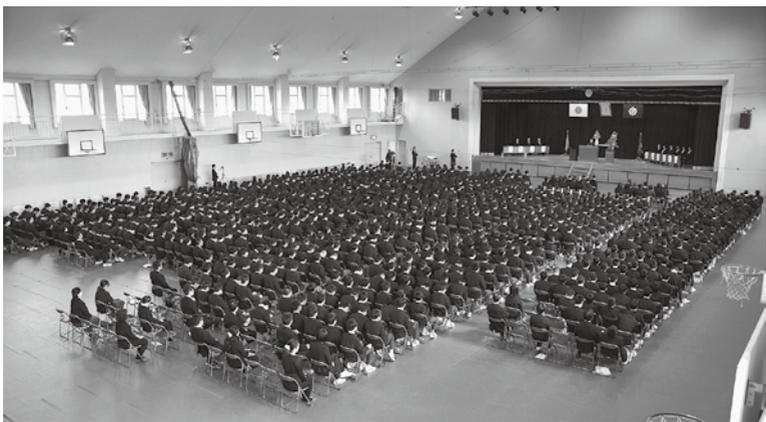
す。私に命を
与えてくれた
両親、そばで
支えてくれる
家族、いつも
笑いあってく
れる友達、私
たちに可能性
を与えてくれ
る先生方、す
べての人に感
謝の気持ちで
いっぱいいた
す。この感謝
の気持ちを忘
れずに、今後

も様々なこと
に挑戦してい
きたいです。
後輩の皆さんも、周囲の
人に感謝しな
がら、前向き
に努力するこ
とを大切に、
一日一日を
過ごしていま
しょう。日々
の積み重ね
がやがて大き
な力となって
、人として大
きく成長でき
るきっかけに
なると思いま
す。



す。私に命を
与えてくれた
両親、そばで
支えてくれる
家族、いつも
笑いあってく
れる友達、私
たちに可能性
を与えてくれ
る先生方、す
べての人に感
謝の気持ちで
いっぱいいた
す。この感謝
の気持ちを忘
れずに、今後

長いと思っ
ていた金光
学園での生
活も、私たち
高校3年生に
とっては残り
わずかとなり
ました。そし
て、今、将来
の夢に向かって
、受験という
壁を乗り越え
ようと必死で
努力している
毎日です。自
分自身の将来
のため、そし
て世のお役に
立つ人となる
ため、全力で
頑張りたいと
思います。
最後になりました
が、金光学園
の生徒一人一
人が言葉の「
人をたいせつ
に」の精神を
持ち続けて、
社会に貢献し
希望



の光なることを願ひ、所願表明といた
します。



まだ17歳で
あったため選
挙に参加する
ことができま
せんでした。
来年、選挙権
を得て選挙に
参加すること
が出来るとな
ったなら、
身近な政策を
はじめ、核の
問題や安全保障
の問題まで私
自身でよく
検討して一票
を投じ、意志
表示をしたい
と思います。
私は金光学園
で勉強だけで
なく、様々な
ことを学びま
した。中学校
から6年間
卓球部での活
動を通して、
最後まで諦め
ず前向きに考
える力を身に
つけました。
毎日の練習は
とてもハード
で大変でした
が、日々練習
を積み重ねま
した。しかし
、試合でなか
なかな良い成
績が出ず、く
じけそうにな
ったことがあ
りました。そ
んなとき、私
はいつも「ピ
ンチはチャン
ス」という言
葉を思い出し
、一緒に頑張
ってきた仲間
の声援を受け
、自分を奮い
立た

道 (19)

金光 道晴

やつなみ保護者会の歩み

本校のPTAは、昭和23年発足、来年で70年の記念すべき節年を迎えます。ここまで長い歴史の中で、様々な取り組みを進めてきておられます。言うまでもなく、本学園教育に對しても、保護者として全面的に温かいご理解とご協力をいただき、大きな支えをいただいております。ご協力には誠に有り難く嬉しいことでもあります。そこで今回の「道」では、改めて金光学園におけるPTA活動の歩みを振り返ってみることにいたしました。

さて、本校のPTAは現在「やつなみ保護者会」と申しておりますが、設立は戦後間もない昭和23(1948)年で、「父母教師会」という名称でありました。その名の通り、生徒の保護者である両親(父母)と私達学園教職員が共に手を携え、協力して生徒を育てていこうということからその名前がつけられました。そんな経緯で設立されたからでしょうか、初代の会長には、何と保護者の方ではなく、当時の校長の内田律爾先生(3代校長)が就任されています。翌年からは保護者の方が会長にお当たりいただいておりますが、PTA会長に校長が就任していたというのは驚きであります。

当時、金光学園は今の場所ではなく、金光教の本部境内に隣接していましたが、その昭和23年から、約6年かけて現在とところで、生徒は卒業すると当然卒業生として、ほつま同窓会の会員となるわけですが、保護者の方は、子供さんの卒業と同時に、元保護者ということになるわけです。そんな中で今から25年前、会長や副会長をなさった方々の中から声が上がって、設立されたのが、「父母教師会歴代幹部会(現やつなみ保護者会歴代幹部会)」であります。平成4年(1992年)のことでありました。その設立の願いは、自分達の子供が学園を卒業してからも、なお父母教師会二役OB・OGとして、お互いの親睦を図るとともに、金光学園を応援していきたいというものであります。そのような熱い思いの中で結成されたのであります。以来25年わが子を通してのご縁をいただかれた方々によって、歴代幹部会も引き継がれておりますことは、誠にありがたいことではないことではありません。

先日の10月31日(火)に設立25年記念総会が開催されました。そしてこの記念の年に素晴らしい記念誌「金光学園 やつなみ保護者会歴代幹部会設立25年記念誌」が発刊されたのであります。その記念誌を読ませていただき、その時代、その時代の保護者としての、また役員としての熱い思いや、願いをあらためて感じさせていただき、有り難く、嬉しく、大変感動したようなことでもあります。その記念誌には50名を超える方々の文章が掲載されていきました。その中に何人もの方が、「ちははもこともともにもうまれたり そだたねばならぬ子もちははも」という金光教前教主様の歌を引用して、自分も我が子と共に学園に入学させてもらい、子とともに親として育てられたことへの感謝の気持ちを綴っておられるの

の占見野に移転するという時期でありました。しかし、その後、様々な社会状況の変化の中で、ご両親がそろっていない家庭も増えてきたり、祖父母が保護者になられるケースも出てきたりする中で、岡山県私学協会もPTAを「保護者会」と改称することになりました。本学園もそれを契機に、平成19年に半世紀以上慣れ親しんだ「父母教師会」という名称から、金光学園らしい名称に改称しようということになり、その保護者の機関誌「やつなみ」にちなんで、「やつなみ会」と改称することになりました。しかし、学園関係者以外の方には「やつなみ会」では何の会か、わかりにくいということでも、その翌年にはさらに「やつなみ保護者会」と改称して現在に至っています。名称は変わっても、発足当初から、保護者の方々には様々な活動を通して学園教育を支え、全面的に協力をしてくださっていただき、現在もその活動は脈々と受け継がれておりますことは誠にもったいないことでもあります。ここで2、3の例をあげてみます。まず、「地区会」は父母教師会設立の翌年の昭和24(1949)年から16地区で始められ、貴重な意見交換の場として現在も開催されています。また、機関誌として発刊されている「やつなみ」も昭和27(1952)年に第1号が発行されて以来、65年を経過した今回の249号を数えています。さらに、保護者の方が中心になって始まった「友愛セール」は、昭和50(1975)年の文化祭で実施され、今日まで40年以上にわたり、学園教育の充実のために大きな支援を続けていただいております。今年の「ほつま祭」でも保護者会の役員の方々の献身的なご協力により、大きな成果をあげていただいたのであります。

であります。その精神は今もなお金光学園教育に、また「やつなみ保護者会」の原点になっているのであります。写真も100枚を超えるものが掲載されており、懐かしい思いと、当時の熱い願いや祈りを感じさせていたただいたのであります。その一部の写真を掲載させていただきます。

私は入学式や各学年の保護者会で、保護者の皆さんに、お忙しいとは思いますが、できるだけ学園に足を運んでいただき、学園教育に保護者として参加していただきたいと願っています。確かに学校に対して保護者の方々から、ご指摘やご批判をちょうだいすることもありますが、それを真摯に受け止め改善していき、賞賛のお言葉からは元気をいただき、さらに良きことは伸ばしていくことが大切だと考えています。

長い歴史と伝統を持つ金光学園では、その応援団としての卒業生や保護者の方々のご理解とご協力は最も大切なことだと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いします。



金光学園 やつなみ保護者会
歴代幹部会設立25年記念誌



メタセコイヤ

新谷忠彦先生 私学協会功労者表彰を受賞

新谷忠彦先生が、8月1日倉敷アイビースクエアにて、平成29年度岡山県私学教育功労者表彰を受賞されました。

「先輩の先生方、卒業生とその保護者の方々、金光教関係者の方々、同僚の先生方、そして生徒とその保護者の方々。私を支えてくださった皆様のおかげで受賞させていただいております。これからもますます頑張つて参ります」と語る新谷先生



活躍おめでとう

中国中学校バレーボール選手権大会に出場して

中3 森下 宙

僕たち男子バレーボール部は8月2日から鳥根県で行われた第51回中国中学校バレーボール選手権大会に岡山県代表として出場しました。僕は、昨年もこの中国大会に出場しており、2年生ながら「全国大会出場」という大きな目標を持っていました。惜しくもベスト4という結果に終わってしまい、本当に悔しい思いをしました。だからこそ、今年こそは優勝して全国大会へ出場したい気持ちで一杯でした。その強い気持ちを持って大会に臨み、予選リーグは危なげなく勝利することができ、準々決勝でも苦戦しましたが勝利しました。昨年のリベンジを果たすべく準決勝に望みましたが、気持ちがあく空回りして敗戦してしまいました。結果、昨年と同様ベスト4に甘んじてしまい、今年も本当に悔しい思いがしました。目標は果たせませんでした。大切なことに気づかせてくれました。それは、何

生のみますの活躍をお祈りしています。本当におめでとうございませう。

第9回 坊っちゃん科学賞 研究論文コンテスト 入賞



高校3年の高原健くんの研究「スクランブル交差点における青信号の設定時間と車の待ち時間の相関」が坊っちゃん科学賞研究論文コンテストで入賞しました。

「僕は高校一年の頃からこのテーマを研究しています。しかし、実験の関係でプログラムを組むことに苦労したうえ、なかなか賞を取ることはできませんでした。今回の受賞はこれまでの努力が報われたようで大変嬉しかったです。将来は、このテーマをさらに発展させ、大都市の交通システムを改良することで、渋滞を



事にも大きな目標の前には大きな壁があり、一人の力ではそう容易く突破することは出来ないということです。僕は、次の目標を定め、「今度こそ」という気持ちを持って皆で力を合わせたいと思います。終わりに、最後まで一緒に戦ってくれた仲間、指導して下さった先生、先輩。そして応援して下さいましたOBの方々と父さん、母さんに感謝したいです。本当にありがとうございます。これから

解消していけるようになりたいです」と語る高原くんの今後の活躍に期待してまいります。

岡山統計グラフィコンクール 入賞

高校1年の上田百華さんが「現代の雇用問題」田中茉莉子さんが「ニュージージーランドの子ども、保護者が日本についてどのように思うか?」、久津間梨花子さん・東あすかさん・守分桃伽さんが「晴れの国岡山 本当!?」というテーマで調査を行い、岡山統計グラフィコンクールでそれぞれ入賞しました。おめでとうございます。



全日本合気道演武大会に出場して

高3 倉藤 直幸
高3 遠藤 稚子
高1 遠藤 稔文

私たち3人は平成29年5月27日に行われた全日本合気道演武大会に出場するため、日本武道館に行ってきました。私たちは3人も全国大会に出場するのが初めてだったため、最初は全国大会に出場するという自覚があまりありませんでした。しかし日本武道館に着いて他の県の方や先生方の演武を見た時、一気に緊張はじめ汗が止まりませんでした。そして緊張したまま本番直前になりました。正直、どうなるかとても不安でした。しかし自分たちの番になり畳に足を一歩入れた瞬間、緊張



持ちも再認識することが出来た大会になりました。これからも感謝と誇りをもって合気道が続けていきたいです。



国民体育大会に出場して

高1 森永 慶之

僕は10月6日～8日に愛媛県で行われた第72回国民体育大会相撲競技の部に岡山県代表として出場しました。試合は5人チーム制の団体戦で行われ、副将として出場しました。試合結果は鹿児島2-3、青森5-0、奈良1-4の2勝1敗で惜しくも決勝リーグ進出を逃しました。高校生になって初めての全国の舞台で嬉しかった反面悔いの残る試合もあったので、しっかりと課題を修正して次に繋げていきたいと思っています。応援ありがとうございます。



平成29年度南東北ブロックインターハイに出場して

顧問 安田 智幸

平成29年8月5～7日、宮城県塩竈市「塩釜ガス体育館」において開催されたインターハイに、高3の井上日和が女子自由単独演武の部に出場し、予選、準決勝を突破し、第5位に入賞した。

高3 井上 日和

私は、8月5日から7日までの3日間、宮城県塩竈市で行われた第44回全国高等学校少林寺拳法大会に出場しました。高3生活最後のインターハイ、最後まであつて臨む姿勢も気合いもいつもとは違いました。



第65回中国高等学校選手権水泳競技大会100m背泳ぎに出場

高3 佐藤 大紀

夏に僕の水泳人生の集大成ともいえる中国大会に出場しました。最後というだけあってとても緊張しましたが、今までで一番納得のいく泳ぎができました。高校3年間やりきれたのも、いろいろな人の支えがあったので事なので、支えてくれた人に感謝したいです。

第69回中国五県対抗水泳競技大会シンク口競技に出場、デュエットの部3位入賞
高1 佐藤 成望
夏に行われた中国大会で入賞することができました。今年度も相方とやりきれ



たという達成感と、来年に向けての課題がよくでてきた1年となりました。来年は今年よりもっと点数が高くなるようがんばりたいです。

第19回高校生文芸道場中国ブロック大会(山口大会) 散文部門優秀賞執筆と出会って

高3 滝口 道雄

小説を書き始めたのは中学校くらいからだったと記憶しています。もつとも、当時は構力も文章力もない中で執筆で、自己満足以上のものではなかったのですが。文芸部には高校2年生の春から入部しました。が、自分から自発的に入部したのではなく、最初に勧誘があり、偶然小説を書く趣味があったから入部してみるかとやや軽い感覚での参加でした。



趣味で書いていた頃は、半年以上かけて出来損ない程度の小説を一本書くだけ

した。気合い十分で挑んだ結果は5位。1位を目標に掲げて日々の修練を積み重ねてきた分、この結果は正直悔しいとも思いました。しかし、少林寺拳法は単なる勝ち負けを追い求める武道ではなく、自分の幸せも相手の幸せも考えて行動できる人間になる事を一番の目的としています。インターハイ決勝直前、決勝進出者16名が自然と円陣を組みました。ライバルではありますが、敵ではなく仲間です。皆のベストパフォーマンスを祈り讃え合おうと心が一つになった瞬間でした。3才から始めた私の少林寺拳法人生の中で、最も大いなる意義を感じ、自分史上最高の大会にする事ができました。少林寺拳法を始めて15年間、いつも側で支え続けてくれた両親、恩師である安田先生には感謝の気持ちが尽きません。金光学園少林寺拳法部で学び得た事を教訓に、春から始まる大学生活においても、努力を怠らず日々邁進し頑張っていきたいです。

医療の谷間に灯をともす



石原 辰彦（高34回）

大学の場所は栃木県下野市薬師寺と言
い、奈良時代に弓削の道鏡が流された「下
野薬師寺」のある場所です。歴史の好きな
方は調べてみてください。私は受験前には
栃木県がどこにあるのかさえ知りませんで
した。関東平野の北部のJR東北本線沿い
に、かんぴょう畑の中に巨大な白亜の大学
の建物があります。広大な敷地の中に学生
寮もあり、よく遊び、よく休み、時に勉強
をして6年間を楽しく過ごしました。各県
から2〜3名ずつの入学生がいますから、
全都道府県に友人がいます。県ごとの結び
つきがあり、岡山県人会での縦のつながり
も強く、郷里から遠く離れた場所でも心強
いものでした。

昭和63年に医師国家試験を無事突破した
後に、医師として岡山県職員となり9年間
の義務年限を果たすことになりました。初期
研修として2年間は岡山済生会総合病院で
スーパーローテート研修を行いました。今
では全ての医師が、内科、外科、救急科、

麻酔科、精神科、小児科、産婦人科、整形
外科などの色々な科を経験するスーパー
ローテート研修を受けていますが、当時は
岡山県内では自治医科大学卒業生のみが受
けていました。その研修により、様々な問
題を抱える患者へ対応する能力を養うこと
ができました。また、多くの科の先輩医師
たちとのつながりも出来、困ったときには
相談できる相手となっていました。

初期研修後に医師が不足している地域の
病院に計6年間派遣されました。矢掛町国
保病院に2年間、成羽町国保病院（現在の
高梁市）および隣の備中町の西山診療所・
湯野診療所に4年間派遣され、診療所の隣
にある小学校の校医として学校健診や予防
接種を行うこともありました。診療所や病
院まで来院できない患者へは、看護師と伴
に患者宅へ往診にうかがうこともありまし
た。また町長さんや課長さんなどの行政職
の方々とは話をする機会も度々あり、医療の
提供には行政との協働が大切であることを
学びました。

9年間の義務年限が終了するころ、初期
研修で2年間を過ごし、その後週1回の内
視鏡研修に通っていた岡山済生会総合病院
に緩和ケア病棟を開設する計画があり、そ
の担当者の一になる話がもちあがりまし

た。成羽町国保病院でがんと診断した患者
さんが倉敷や岡山の病院で治療し、再発・
進行し最後は故郷で過ごしたいと願う時
に、成羽病院で看取りまで担当することが
しばしばあり、患者の苦痛に向き合うこと
に難しさを感じていました。ホスピス・緩
和ケア病棟のパイオニアである淀川キリス
ト教病院ホスピスでの研修を受けた後に、
緩和ケア病棟開設に携われることになり、
平成9年に岡山済生会総合病院に戻り、仕
事の内容が、へき地医療という「地理的な
谷間」から緩和ケアという「時間の谷間」
に変わりました。

淀川キリスト教病院ホスピスと国立がん
センター東病院緩和ケア病棟での研修を受
け、外科の先生や看護師たちと一緒に準備
を進め、平成10年7月に緩和ケア病棟を開
設しました。「緩和ケアとは、生命を脅か
す疾患による問題に直面している患者とそ
の家族に対して、痛みやその他の身体的問
題、心理社会的問題、スピリチュアルな問
題を早期に発見し、的確なアセスメントと
対処（治療・処置）を行うこと」によって、
苦しみを予防し、和らげることで、クオリ
ティ・オブ・ライフを改善するアプローチ
である」とWHO（世界保健機関）は定義
しています。諸外国ではがん以外の病気で

も緩和ケアの適応となりますが、日本の保
険診療ではがん患者のみが緩和ケア病棟を
利用できます。

日本人の2人に1人が生涯のうちにがん
を発症し、がんは決してめずらしい病気で
はありません。進行がんとなり、末期がん
となり、様々な苦痛・苦悩が表れてきます。
その一つ一つに目を向け、和らげること
によって、苦痛から解放され、その人らしく
生きる事ができます。死ぬために緩和ケ
ア病棟に来ている患者は少なく、死ぬまで
の苦痛をできるだけ和らげ、その時まで
しっかりと「生ききる」ために来ています。
緩和ケアは死を支えるケアではなく生を支
えるケアと言えます。人生を終える時に「私
は生ききった、ありがとう」とまわりの人
に感謝を伝えられるようにお世話ができる
と、自身の仕事のやりがいを感じます。

緩和ケアに携わった20年間、時々思い出
した金光学園で教わった言葉は「人をたい
せつに自分をたいせつに物をたいせつに」
です。中学の入学式で佐藤一徳校長に最初
に教えていただきました。「一番大切な
はどれか」と問いかげられました。3つと
も大切なのですが、まずは「自分」を大
切にできない者は「人」も「物」も大切に
できないと思います。決して「自己中」に

なれば良いということではありません。医
師として自分の体と心が健康でなければ、
患者の病気を治すことはできません。この
健康な体を育ててくれた金光学園の6年間
が、今の医師としての存在を支えてくれ
ています。この場を借りて、学園の先生方、
同級生、先輩や後輩の方々に感謝を申し上
げます。ちなみに食前訓と食後訓は今でも
言えます。

略歴

昭和63年3月	自治医科大学医学部卒業
昭和63年6月	岡山済生会総合病院研 修医
平成2年6月	矢掛町国保病院内科
平成4年6月	自治医科大学消化器内 科後期研修
平成5年6月	成羽町国保病院内科 兼 備中町西山診療所・ 湯野診療所
平成9年6月	岡山済生会総合病院内科
平成10年7月	岡山済生会総合病院緩 和ケア科
平成26年8月	NPO法人日本ホスピ ス緩和ケア協会副理事 長 兼務

会報

やつなみ保護者会地区会 7月を中心に26の全ての地区で地区会が開催された。平均出席率は46.1パーセントであった。(昨年43.2パーセント)また、止宿の保護者の方にはアンケートでご意見をいただいた。地区会でもいただいたご意見は、冊子にまとめて、全役員会で配布され、学校では今後の指導に活かされる。

オープンスクール手伝い 7月30日のオープンスクールでは、二役と各部長他、12名の役員がお手伝いをし、参加した小学生・中学生・保護者に冷たいお茶やミネラルウォーターを配布し、喜ばれた。

第3回評議員会 8月29日開催。会長挨拶の後、各部別協議と各部より報告研修・出張の報告等がされた。

第2回全役員会 8月29日評議員会の後引き続き開催された。会長・校長の挨拶、学校近況報告の後、協議報告事項に移った。指導部からは、地区会の報告、

街頭・列車補導について、庶務部からは、友愛セール、大祭湯茶接待について、教養部からは、研修旅行と教養シリーズ発刊について、それぞれ報告と協議がなされた。また、友愛セールについての打ち合わせを行った。

友愛セール 9月9日には準備、10日にはほつま祭での友愛セールを、全役員が一丸となって取り組んだ。近年遊休品の収集が難しく、一学期から夏休みをかけて、手作り会を開催し、手作り作品を多く販売した。企業協賛には59社のご協力があった。また、高3保護者有志によ

る模擬店も好評であった。(収支決算については別項参照)

金光教大祭湯茶接待 10月1・8・10日の3日間に行われた、生神金光大神大祭に延べ33名の役員が奉仕した。また、12月10日に行われた、布教功労者報徳祭に9名の役員が奉仕した。いずれも全国の参拝者の方々に湯茶の接待をして大変感謝された。

やつなみ保護者会研修旅行 11月2日、役員、ほつま祭の友愛セール・模擬店お手伝いの方を含め54名が参加した。鳴門市の大塚国際美術館で世界の絵画に

【H29年度友愛セール決算報告】

収 入	友愛セール売上	1,928,151
	模擬店売上	352,738
	チャリティー、予約販売	1,263,049
	売上追加等(寄付金)	219,751
	合 計	3,763,689
支 出	手作り作品材料他諸経費	173,381
	友愛セール用物品購入費	24,527
	合 計	197,908
収支(収入-支出)		3,565,781
使 途	赤十字事業資金へ	20,000
	社会福祉協議会(歳末助け合い)	50,000
	合 計	70,000
残 高		3,495,781

※印 例年寄付をさせていただいている団体

触れ、昼食はイタリアンのランチを食し、芸術と食欲の秋を満喫し、バスの中でも終始和やかに親睦を深めた一日でした。(やつなみ保護者会のページ参照)

第4回評議員会 11月30日開催。2学期の主な行事(友愛セール・研修旅行・研修会・補導活動等)の報告及び反省が行われた。また、平成30年度から、大谷地区と須恵・佐方地区が合併し、「大谷須恵・

佐方地区」に、福山第1地区と福山第3地区が合併し「福山第1・3地区」になることが議決された。また、やつなみサークルに「国際交流クラブ(仮称)」が新設されることが承認された。

諸会合

- 8月24・25日 全国高P連静岡大会
- 平松会長・横藤田副会長の2名参加
- 10月5日 玉島警察署管内子供を守る母の会施設研修 難波評議員参加
- 10月24日 浅口里庄P連母親委員会研修会 遠藤副会長・佐藤監事出席
- 11月14日 県高P連指導者研修会 遠藤副会長、加藤・藤木・川田評議員出席
- 11月30日 備西地区高P連秋季総会 平松会長・金光校長・佐藤事務局長・藤井事務局出席

やつなみ保護者会歴代幹部会「設立25年記念誌」発行

保護者会三役歴任者によって平成4年に設立された「歴代幹部会」が今年25年目を迎えたことを記念して記念誌が10月1日付で発刊されました。「活動を共にした役員が、退任と共にこのままバラバラになるのは寂しいね」と声が上がりに「歴代の幹部で会を作ったらどうでしょう」ということで歴代幹部会が生まれました。北浦歴代幹部会会長はあいさつの中で「学園で学んだ学生は、教職員の方々の学生への温かい思いやりとやさしさの中で学ばれた人たちであります。そこには、厳しさの中に、誠(真)があるからだと思います。そして、目に見えない不思議なお力で支えられている、という金光教教主金光様のお祈り添えの中での金光学園の存在を感じております。そのご縁をいただいた私共は、知らないうちにすべての面でありがたいおかげをいただいているという事でございます」とお話しになりました。このように歴代幹部の皆様への金光学園に対する熱い思いのこもった記念誌となっております。



設立25年記念総会にて

やつなみ保護者会のページ

秋晴れの中、中学体育会

中1 保護者

体育会日和。好天に恵まれ、中学体育会は清々しい気持ちで執り行われました。中学一年の息子が入場する様子には、思わず鳥肌が立つほど。小学生の頃より一回り大きく成長し、頼もしい雄姿を目の当たりにすることができました。応援合戦では、私の在校時代の時と変わらず、兄弟学級が一丸となって、協力し合い、励まし合い、見事なものを作り上げていました。保護者としては、長男、長女に続く観覧です。毎年どのクラスも感動を味わわせてくれ、感謝しています。また来年も、さまざまな競技で、保護者に感動を届けてくれることでしょう。これからも、子どもたちの仲睦まじい様子に、保護者同士も感化され、より一層絆を深めていきたいと願っています。

技とパフォーマンスと、子ども達の成長の姿です。力を抜くことなく一生懸命に走る姿や、体も大きくなった逞しい姿には、私も応援に力が入り、同時に子ども達からたくさん力ももらっています。部活動リレーの面白いパフォーマンスも大好きです。今年も、途中から雨に見舞われてしまいました。雨にも負けず……子ども達も、保護者も、最後まで競技を楽しむことが出来ました。これも思い出深い体育会です。サポートしてください先生方には感謝申し上げます。また、3年生にとっては最後の体育会でしたね。チーム一丸となって戦う団結力や仲間を応援する笑顔は、さすが3年生！と思えました。

机上だけでは学べないことは、子ども達にとっても、私達にとっても大切な心強い宝物です。本番までの紆余曲折もあったことでしょう。このような経験や仲間が、これから先、子どもの支えになって行くことと思います。雨にも負けず……楽しかった体育会。「来年は晴天に恵まれますように」

ほつま祭を終えて

高2 保護者

ほつま祭2日目、前日からの活気の中でデニムのエプロンをつけ、持ち場の予約販売に立ちました。まさに、あ・うんの呼吸で販売が進んでいきます。何だかずっと前からの仲間のような居心地の良さ、目の前の小体育館外で出番を待つ生徒たちの熱気が、私のワクワクを押し上げていきます。もちろん子どもたちが主役のほつま祭です。情熱あふれる演技・発表、工夫をこらした展示に感動し、成長に喜びを感じました。

いよいよデニムのエプロンをはずす時、清々しい疲労感とともに、一つの思いが湧いてきました。この懐かしい気持ちは何だろう、この胸の高鳴りは何故。それは多分、子どもの活躍をみるだけでなく、私自身が中高生だった頃のように、私の学校の私の文化祭を楽しんだからで

しょう。学園を吹き抜ける風が、子どもと供に感じ考え肩を並べて進んで行く事を、あと押ししてくれているのかもしれない。私の心をグツと若く熱くしてくれた、ほつま祭のすべてに、すべての方々に、心から「ありがとうございます」と言いたいです。

雨にも負けず……

高2 保護者

娘が楽しみにしている行事の1つが体育会。

日に日に日焼けしていく顔から、体育会への高まる気持ちが溢れんばかりです。

私も応援に行くことが楽しみで、「晴天に恵まれ、楽しく体育会を頑張れますように」と毎年祈りながら当日を心待ちにしています。高校の体育会の楽しみは、迫力ある競

11月2日(木) やつなみ保護者会研修旅行

11月2日(木) 稲川 律子 教養部

11月2日(木)にやつなみ保護者会役員と友愛セール・模擬店にご協力いただいた保護者の皆様と徳島方面に研修旅行に行つて参りました。当日は54名の方がご参加くださり、さすががしい秋晴れの中、絵画を鑑賞し、おいしいお料理を頂き、「芸術の秋」を満喫した楽しい一日となりました。

まず初めに、大塚国際美術館へ。陶板複製画を中心とした日本最大の美術館(延床面積29,412㎡)といわれるだけあって目も眩むような西洋名画1,000余点の展示は言葉では言い表せないほどの迫力でした。残念ながら2時間の滞在時間ではすべてを見て回ることができませんでしたが、ぜひまた機会があればゆっくりと来てみたいと思いました。

ランチは「リゾートホテル モアナコースト」内にある、「リストラントフィッシュボーン」。おいしいイタリアンを頂きながら、普段なかなかお話しすることのない方々とのランチはとても楽しいひと時でありました。

添乗員さんのご厚意により行程にはなかった鳴門山展望台に立ち寄り、大鳴門橋と鳴門海峡を見下ろす絶景もよい思い出となりました。帰りの津田の松原サービスエリアではココでしか買えないスイーツなど、四国の名産品を、皆さんたくさん購入されていました。バスの中では添乗員佐藤さんのユーモアに溢れたお話を片道2時間の道のりもあつという間の到着となり、楽しいバスの旅となりました。

皆様のご協力により無事研修旅行を終えられたことに感謝いたします。そして、お忙しい中、教養部の我儘なお祈りにも丁寧に対応して下さり、ご尽力頂きました佐藤副校長先生にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。





韓国・春川女子高等学校 第8回姉妹校交流

8月14日(月)～19日(土)にかけて春川女子高等学校にて、姉妹校交流が行われました。高1が9名、中3が6名、あわせて15名の生徒が参加しました。事前に金光教の角南浩先生から韓国事情を講義してもらい、自分たちでも韓国の歴史や産業、風習などを調べ学習冊子としてまとめました。現地では金光教ソウル活動センターの末永錦也先生と学園卒の荒木隼人くんが訪問をサポートしてくれました。春川女子高等学校で音楽や美術の授業を受け、学食体験や韓服着付け体験もできました。日本語歌謡大会では学園生のパフォーマンスに割れんばかりの拍手をもらい、翌日の文化祭では春川の生徒の迫力ある公演を鑑賞しました。行程の中では何よりホストファミリーと過ごした時間が生徒にとって印象深いものとなったようでした。今回の姉妹校交流

を通して、異文化に触れることで韓国語や英語を学びたいと強く思う生徒が多くなりました。国境を越えて芽生えた絆を、これからさらに育んでいきたいという強い願いをもつことができた素晴らしい交流となりました。

掛け橋になる 高1 金光 琴音

「韓国の匂い、韓国の地面、最高じゃん」私が飛行機を降りて友達としゃべった言葉です。その日は雨だったのに、私はすべてが新鮮で不思議で最高でした。それはこれから始まる一週間を思うと、言葉では言い表せないほどの衝動にかられる毎日を約一ヶ月間、日本で続けていたからです。

私のホストシスターは高2です。私が行く前にもたくさんカカオトーク(スマホアプリ)を通じてやりとりをしていたので、対面したときはとても嬉しく夢のようでした。

そして初日に私が生まれて初めて食べたタッカルビのおいしさに衝撃を受けました。

二日目は自由行動の日で、ホンデに行くって、たくさんの方に触れ、食べ、見て、

この9月9日・10日の両日に亘り、平成29年度ほつま祭が晴れやかな秋空の下、盛大に開催されました。友愛セールに際しましては、保護者の皆様方より多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

本年度のほつま祭のテーマは「輪(LEINKS)」とながるきずな、つなげる青春」でした。そのテーマの通り、学園全体が一致団結した強いきずなでほつま祭を盛り上げ、成功に導きました。夏休み前から準備した展示物、これまでの練習の成果を出し切った舞台、慣れない接客も頑張った模擬店等、あちこちで青春がつながり、輝いていました。

そして学年の枠を超えた保護者の方々の強いきずなで、友愛セールも大成功を収めることができました。皆様方の数ヶ月前からの度重なる諸会合へのご参加、前日からの準備及び当日の各コーナーのお手伝い等、労を惜しまないご奉仕をいただいた結果、重ねてお礼申し上げます。そして今回初の試みとなりました、アサムラサキ協賛のチャリティーにも多くの皆さまにご賛同いただき、誠にありがとうございました。

中学高校一貫で行われる金光学園のほつま祭は、近隣のどの学校にも引けを取らない大規模なものです。よって友愛セールも類を見ない大がかりな物となっており、地元の人々も大勢押し掛けるほどの名物企画であ

「2017年 友愛セール」ご協力の御礼

ります。

そして手作り作品は毎年朝早くから行列の出来る人気コーナーとなっております。これらの作品は保護者の方々が一番早く6月の初旬より学園にお集まり下さり、一つ一つ心を込めて制作していただいたもので、素人の手による物とは思えない程の技術・完成度であります。

ネット等の発達により、たいいていの物が簡単に早く手に入る現代だからこそ、これらの手作り作品は大きな意味を持つと思います。保護者の方々が忙しい合間を縫って学園に集い、手間のかかる作業に取り組み姿は子供たちに言葉以上の教育を与えてくれていると信じています。そして卒業した後も購入した手作り作品を見る度に懐かしい、温かい気持ちになってくれることでしょうか。

123年の伝統を引き継ぎ開催されるほつま祭ですが、毎年少しずつ変化、そして進化しております。反省すべき点や改善すべき点は積極的に取り入れて参りたいと思っておりますので、お気づきの点がございましたら、ご意見等ごしとお寄せ下さい。

金光学園のより一層の充実のため、今後とも温かいご協力の程、よろしくお願い致します。

金光学園やつなみ保護者会
会長 平松 晃弘

学べた一日でした。地下鉄内でのルールやサムギョプサルの正しい食べ方、焼いたキムチがどれだけおいしいのか、日本で生かすべきことを一日で多く学ぶことができました。

三日目、ホストシスターたちとともにカヌーやレールバイクを体験し、さらにお互いを理解し合うことができました。歌謡大会や文化祭にも参加して、日本の行事との比較もできました。

実際に韓国を訪れるまで私には数え切れないほどの疑問がありました。例えば、本当に日本を嫌いに思っている人が多いのか、韓服は浴衣とどのように違うのか、疑問のジャンルは様々でしたが、すべて解くことができました。インターネットなどのメディアや本などで学ぶだけでなく、自分自身がその場に足を運んでみるのが大切だと改めてわかりました。

そして、私は一週間の目標として韓国語でのコミュニケーションを心がけていました。初日は耳がなかなか慣れず、みんなの前での挨拶も上手にできませんでしたが、最終日には韓国でできた友達のパライベートな話まで聞き取れるようになりました。何事も意欲をもって取り組

に書いた。彼女が書いたのは「to 清華 1週間、楽しい思い出たくさん作ってって！ From 東主」というお願い事で、本当に嬉しかった。ついさっき会ったばかりなのに、ずっと前から友だちだったような気がしてとても幸せだった。その後も私が行きたいと言っていたロッテマートへ連れて行ってくれた。こんなに楽しい買い物は初めてだった。2日目、3日目とすべて私が、行きたい、食べたいと言った場所へ連れて行ってくれた。本当にこんなにステキなホストシスターやホストファミリーに出会えて良かったと思う。そして最終日の前日にはロッセワールドへ行こうと誘ってくれて、最後の最後まで心から楽しむことができた。こうして過ごした5日間は現実を忘れていた。毎日が夢のようで、楽しくて一生分の笑顔を出し切ったようだった。こんな貴重な体験をすることができた私とても幸せ者だ。



めば、たとえ国が違ってても信じあえます。私はそんな日韓の懸け橋になりたいです。

夢みたいな5日間 中3 川田 清華

飛行機に乗った瞬間、次に地上に足を踏み出すときは日本じゃないんだと思った。そんな大きな期待と楽しみな気持ちを持っていく荷物よりも大きくて重かった。一歩踏み出したとき「ここは韓国なんだ」と思い、本当に嬉しかった。今まですっと行きたかった国だったからだ。看板の文字がハンゲルであることが信じられず、まだ日本じゃないのか、と今自分が韓国にいることが信じられなかった。バスに乗り学校へ到着した。いよいよホストファミリーとの対面。私はとても緊張していた。ドキドキして胸が高鳴っていた。名前が呼ばれホストファミリーの所へ向かうとき、自然と笑みがこぼれ、気分は最高潮だった。そんな私をみんな笑顔で迎えてくれて、とても安心した。歓迎会を終えた後、私が食べたいと言っていた鳥カルビを食べに連れて行ってくれた。パン屋さんにも行った。おいしいジュースとパンをみんなで食べた。お願い事を書く場所があり、ドンジョと一緒に



東京研修

8月3日(木)～8月5日(土) 東京研修を実施した。
参加者は、中学3年生18人、高校1年生10人、高校2年生8人の計36名であった。

1日目

高19回卒で、ロシア大使、フランス大使を務められ、現在、JOC副会長をつとめられている齊藤泰雄先輩をたずねた。2020年のオリンピックに向けて、会場などの整備はもとより、選手の育成にも力を注いでおられること。グローバル化が進む中、後輩である生徒に、グローバルな社会で通用するよう、勉強してほしいことなどを述べられた。

夜は、月島に向かい、グループ別に下調べをしておいた「もんじゃ焼き」のお店で食事をした。

2日目

午前は、読売新聞本社を訪ね、中高生新聞編集部で研修を受け、模擬編集会議を行った。1週間分の本誌(普通の朝刊)の見出しを見ながら、それぞれコンセプトをもって、どの記事を取り上げるべきかをグループごとに検討し、発表した。



電所の建設・更新をテーマにしたゲームを用いて、エネルギー問題について考えた。文系は、異文化理解をテーマにワークショップを行った。

3日目

最終日は、上野公園に向かい、国立博物館、国立科学博物館、動物園など、事前に立てておいた計画に従って、研修を行った。敷地内には、世界遺産に登録された西洋美術館もあり、広大な敷地にある多くの施設に圧倒されながら、見学を行った。1つの施設でも、半日では時間が足りない。もっと居たいと、充実した時間を過ごすことができた。



午後は、理系・文系とコース別に、理系は東京大学大学院工学系研究科教授 金子成彦先生、文系は東京大学大学院総合文化研究科准教授 板津木綿子先生をたずね研修を行った。理系は、研究室の大学院生が考案した発



芸術鑑賞会「英語落語」感想文

グローバルな日本の伝統文化

中1 3組 藤田 大海

本日は世界にも通用する日本の伝統文化である落語を見させていただき、ありがとうございました。落語を見るのは今回が初めてでしたが、言葉や動作だけで人の心をつかむことが出来ることに驚き、感動しました。中でも驚いたのは落語に英語を混ぜていたことです。この新しい落語を僕はとても新鮮に感じました。

そして、僕は、今日のこの体験から「何事にもchallengeする大切さ」を知りました。以前の自分は日本の文化には通用しないという考えでしたが、今日その考えを根底から覆



されました。落語家の人たちはそんな日本人の考えを覆そうとする。challenge精神のある方々なのだと思いました。その精神こそ自分にならないものだと思います。その精神をこれからの学校生活で築いていきたいと思いました。

日本語の言葉の力

中2 4組 廣江 純

正直、僕は落語や大神楽、歌舞伎などの日本の伝統文化に全く興味がありませんでした。しかし、今日の芸術鑑賞会を見て少し落語に興味を持ちました。なぜなら、面白いなあと思ったからという理由もありますが、それより、「日本語の言葉の力」にひかれたからです。日本語に限らず、言葉の力のすごさを感じる事ができました。最初にしていた短いけんかの話など、最後の一言でこんなにも世界はがらりと変わるものなんだなあと感じました。

しかし、今、言葉のすごさを知ると同時に少し危険性も秘めていると感じました。世界が変わる一言や感動、感心する言葉があるなら、心に鋭く刺さる言葉もあると思います。だから、日ごろから言葉には気を付けるということ、それを意識しながらも言葉の美しさを感じていきたいです。

英語落語を鑑賞して

高1 1組 神処 一樹

今日、芸術鑑賞で初めて落語を見ました。僕は落語というとし難いような

イメージを持っていました。しかし、高校生の自分達にも分かりやすい内容でも楽しめました。

初めの桂かい枝さんの話から、すぐに全員を笑わせることができるのはすごいと思いました。また、スライドを使うこともあるのだと驚きました。最新の技術を取り入れて、今の若い人にも伝わりやすく、興味を持ってもらえるように工夫しておられるのだと思いました。

次に聞いた三輝さんの話では、外国人視線も入れている落語で新しい感じがしました。さらに、日本の文化を継承する三輝さんの姿は本当に格好いいなと感じました。

その後、味千代さんによる大神楽がありました。バランスをとることが中心の大神楽は大変すばらしい技術だと思いました。英語もペラペラとしゃべられており、中学・高校での英語を役立たせているのだと思いました。

今日の「英語落語」を聞いて、日本の伝統を英語で発信することで、現代でも多くの人が関心に向け、後世へと良き文化が伝わっていくのだということがわかりました。世の中に色々な仕事がある中で伝統を受け継ぐ仕事もあることがよく

わかり、良い経験になりました。これからの勉強でも英語はとても重要になると思うので、一層頑張っていきたいと思っています。

笑顔を届ける

高3 4組 浪越 素子

最後の芸術鑑賞を終えて、私は改めて人を笑顔にするということとは難しい反面、その分だけ素晴らしいことだと感じました。私の所属しているコーラス部が開催しているサマーコンサートでも、毎回同じように感じます。面識のない人がほとんどの中、自分たちが長い時間をかけてつくりあげたステージで沢山の人が笑顔になったり、感動して涙を流して下さったりすると、大変だった練習の日々もよい思い出になります。今年の8月のサマーコンサートをもって私達高校3年生は引退をしますが、最後まで会場のお客様に笑顔をお届けすることに力を尽くしたいと思いました。そして将来、自分が人を幸せにすることが出来るような仕事に就き、笑顔を広げるような活動をしていきたいと思いました。この思いを胸に大学受験も頑張りたいです。



ほつま祭



ほつま祭で学んだこと

中1 4組 荒島 賢人

この伝統ある金光学園で2日間にわたってほつま祭が行われた。このほつま祭で学んだことはクラスメイトと協力できたときの達成感だ。ほつま祭の準備は1か月前から行われてきた。作業をしていく中で「面倒くさいなあ」「大変だなあ」と思うこともあった。でも、みんな一生懸命頑張っているのに、自分だけ楽をするようなことをしてはいけないと思いい、がんばることができた。

また、自分が立ち止まってしまうときもあった。だが、クラスの仲間が自分のことと同じように真剣に考えてくれた。この経験を通じて、友達の大切さを改めて実感できた。

当日、来ていただいた方に「すごいな」と言っていたんだけど、とても「頑張ったかいがあったな」と思えた。さらに、教室全体を見渡すと、35人分の模造紙やジオラマなど、どれも努力の証がみられるものばかりだった。結果、入賞はできなかったけど、クラス一丸となった最高の思い出になった。

このほつま祭で、仲間の大切さ、そ

して努力した後の

達成感を実感でき

た。これから、体

育会、2年生では

山の学習と、楽し

みなことがたくさ

んある。その時も、

このほつま祭で学

んだことを活かし

てがんばっていき

たい。このほつま

祭の経験は僕に

とって宝物になっ

たと思う。



自分たちの力で

中2 1組 岡崎 准也

一生に一度しかない中2のほつま祭は、僕にとって最高のものになりました。

僕にとつて2回目のほつま祭は去年よりも達成感が大きかったです。その理由の一つが多くの作業を生徒たちだけでやったからだと思います。もちろん、わからないことなどは先生に教えてもらいましたが、テーマを決めたり、

一から調べて模造紙に書いていくのをパネルにはっていたりしていくのはほとんど生徒がやりました。それが、今年、達成感が大きかった理由の一つだと思います。

ほつま祭の前日、皆がそれぞれ翌日のほつま祭に向けて働いていた時、僕はこれがクラスが一つになるといことだと思えました。何かに向かって全員が協力し合って一つのことを成し遂げることはとてもすごいことだと思えます。

そして、当日、僕は当番になったとき、来ていただいたお客様に笑顔で接することを心掛けました。せっかく来ていただいたからには丁寧な接客をして、楽しんでもらおうと思えました。そして、小さな子供たちが笑って楽しんでくれる姿を見ると、一生懸命やってよかったと思えました。来てくれた人ともたくさん話すことができたし、何より楽しく展示の当番することができたので、本当にやって良かったと思えます。

今年が残念ながら、展示の部で3位以内に入れなかったけど、僕としては、



本当に良かったと思います。先生の力に頼らず、ほとんどの準備から片付けまでをクラスメイトとすることができて、とてもたくさんの達成感を味わうことができました。

そして、これを次の体育会、そして

来年のほつま祭でも活かして、クラス一丸となって達成感を味わったり、友情を深めたりしていきたいです。

くアタシ、天使く

中3 1組 八重本 芽依

「キーンコーン、カーンコーン」チャイムの音で、私は幕の紐を引っ張った。くアタシ、天使く私達の1組のステージが終わるまでの瞬間に学んだのは、計り知れないものだった……。

私は、今回演劇の監督をさせてもらった。監督をした上で学んだことは主に2つある。

1つ目は、全体のトップでまとめ、指示を出すことの難しさだ。キャスト、全体などに自分の思っていることを伝えようとしても「相手の思っていることが違う」という場面はよくあった。お互いが良いものを作ろうとしているからこそその衝突であり、どちらかが受け入れて進んでいくしかなかった。「劇」はどれが正解か？ など決まったものがないため、何が正しいかというものがなかった。ただ指示をするだけ、思っていることを伝えるだけではいけない

ということを学んだ。

2つ目は、達成感や喜びは、頑張ったものほど大きいということだ。部活でも試合で勝った時はもちろん嬉しいが、みんなで作り上げたものの達成感や喜びは違った。力を入れて努力し、頑張った分、達成感も大きかったのだと思う。まずは、1組37人全員でステージを作れたこと、そして結果に繋がりに見事グランプリを獲れたことが何より嬉しかった。「今まで練習してきた良かった」と本当に思った瞬間だった。

最後に、何よりも「1組全員に感謝!!」

キャスト、照明、大道具……誰一人欠けても、劇を成功させることはできなかったと思う。舞台に立った人だけではなく陰で支えてくれた人がいたからこそ、できたステージだと思った。私は特にキャストの人達との練習時間が長かったが、演技についての指導もあまり上手くできなかったけど、たくさん意見も出してくれたおかげで、劇を完成させることができた。みんなの協力のおかげで!! 本当にありがとう!!



以前とは違ったほつま祭

高1 1組 中村 悠人

今年、初めて代表者(責任者)として、ほつま祭に取り組んだ。準備の時から、周囲の状況を判断し、計画通りに物事を進めながら作業を行った。途中、何度も困難な場面に直面しながらも、最後まで

やり遂げることができた。当日が近づくにつれて、段々と実感が湧き、ワクワクしてきた。当日、主に呼び込みを担当し、来場者に対して大きな声と笑顔で応対するように心がけた。1日目が終わし、2日目に向けて何をすべきか考え、1日目と2日目と内容を変更し、何度来ても楽しめるようにした。その甲斐もあって多くの方に楽しんでもらうことができて、とても良かった。

ほつま祭を通して、特に学んだことは、クラス全員で協力することの大切さである。僕一人ではできないことはほとんどなく、みんなのお陰でほつま祭が成功できたと思う。特にクラスの実行委員のみんながテーマやタイトル、展示の内容など、一緒に考えてくれて、とても助かった。結果としては、高校展示の部で第2位であったが、僕としてはこのクラスより良いものであったと思う。そのくらい今回のほつま祭は良いもので、多くのことを学ぶことができ、様々なことを改めて考えさせられた。今回の経験を今度の体育会や来年のほつま祭などで生かしたい。

最後に、協力してくれたクラスのみん



なや、様々な場面で手伝いや協力をしていただいた先生方、家族に感謝したい。

皆の笑顔が輝いていた

高2 5組 荒木 佳苗

30分の劇を終え、幕が閉じたときなんとも言えない気持ちになった。すごく楽しかった。楽しかったけど、なんだか少し寂しくなった。

私はなんとなくキャストを希望し、

キャストになった。練習は夏休み前から始まった。初めは「皆で楽しくできればいいや」としか思っていなかった。声の大きさ、セリフの抑揚、立ち位置や動きなどを皆で指摘し合っていくうちに、最高の劇を創りたいという思いが変わった。それまではキャストだけの練習だったが、全体練習が始まると上手くいかないことが増えた。どうしてもキャスト中心に進めてしまう。その時、友達が「私たちは演じているんじゃないかって演じさせてもらっている」と言った。その通りだと思った。照明、音響、大道具、衣装、誰一人欠けても劇は成立しないことに気づいた。それからは、劇に対する気持ちが変わった。セリフがない時のリアクションのとり方、目線や表情など細かい動きを意識するようになった。通し練習を繰り返していくごとに本番が楽しみになっていくにつれ、皆で練習できなくなると考えたら寂しい気持ちになった。

本番当日、あっという間の30分だった。幕が閉まった後、皆の笑顔が輝いていた。すごくすごく楽しかった。5組で良かった。クラスの皆一人ひとりのおかげで最高の劇ができた。ありがとう。



中学 体育会

有言実行

1年2組 網本 七海

成績発表、応援の部、一位。この言葉
を聞いたときの、チアリーダーの、あこ
がはずれるのではないかとはいくらいい
びつくりした顔。常笑軍団のプライドに
かけて泣くまいとがんばる目。その全て



が物語って
いた。チア
リーダーが
応援合戦一
位を夢み
て、自分の
持てる力を
尽くしてき
たことを。
練習時のと
ても大きな
声、工夫し

た練習方法。一言では表せないほどのこ
とを、やりとげた。応援合戦一位と宣言
し、努力した結果が優勝という形で返っ
てきた。その姿に、私は感激した。まさ
に、有言実行だった。果たして、私は普
段の生活で、有言実行できているのかを
考えた。そうすると、できていないこと
に気づいた。何かを努力することによっ
て、結果は何らかの形で返ってくること
を知った。私は勉強でも、発声練習でも、
結果という形で自分がやったことを、自
分で認められるように、がんばりたいと
思う。

全力の成果

1年3組 篠原 健太

1年3組の初めての体育会は最下位と
いう結果で終わってしまいました。しか
し、これはこれでよかったと思います。
これはあくまで全体の結果です。他のク
ラスがわずかに僕たちに勝っただけで、
単体の結果は違います。

1つ目は綱引きです。全体は少し残念
だったけど、1年生は2位をとることが
出来ました。そして、2つ目は長縄飛び
です。初めは1分30秒もあって、たった



え込んでだしたアイデアで2位をとれま
した。このように全体ではなく、各々の
記録を見れば、いい記録が沢山できま
す。僕はこれだけでも十分な成果がでた
と思っています。

来年はこの3組メンバーとは出場でき
ません。別々のクラスになり、対立する
かもしれません。それでも今年のように
全力を出して、笑って、泣いてとても楽
しい体育会になってほしいと思いまし
た。しかし、負けたのが悔しくないわけ
ではありません。だからチャンスがあれば、
何かでリベンジして勝ち越したいと思
いました。

協力の力の大きさ

1年5組 村上 颯

私は、ほつま祭と同じく初めて実行す
る側になっての体育会で、たくさんのこ
とを経験することができました。

まず、仲間との協力についてです。こ
の体育会は、みんなで協力して一生懸命
にしないと成功させることはできなかつ
たと思います。そのことを一番よく感じ
ることができたのが、長縄跳びです。こ
れをしている時に、何度か衝突がありま
した。その後跳んだ時に、クラス全体の
ムードも下が

り、あまり良い
結果を出すこと
ができませんで
した。逆にみん
なが前向きな気
持ちで跳ぶと、
とても良い結果
になりました。
これほど協力の
力の大きさを感
じたのは、これ
が初めてでし
た。



また、他の学年、クラスとの親しくも
深めることができました。お互いを尊重
して、この体育会を全員で盛り上げるこ
とができたと思います。
この経験をこれからは活かして、学校、
家などでの生活をより良いものにしてい
きたいと思います。

縄は一本、心は一つ

2年3組 石原 采佳

みんなで回数を数える声。何回も連続
して跳べた時。今年の大縄跳びでは3組
の団結力の強さをたくさん感じる時があ
りました。

去年の体育会の時は、練習では跳べた
時はあったけれど、本番では数回しか跳
べずに残念な結果でした。だから今年
はリベンジしたいと思っていました。

最初の練習の時に、合計50回跳ぶとい
う目標に、私は跳べるか不安でした。そ
の予感ほ当たり50回を跳べずに終わって
しまつて、今年もダメなのかなと少しあ
きらめかけていました。でも、次の練習
で堤先生にコツを教えてもらった時か
ら、ぐんぐん記録が伸びていって、どん
どん跳べるようになったので、びつくり

しました。その時に教えてもらった中で、
「縄は一本、心は一つ」が一番印象に残っ
ています。
体育会前日の練習の時、1年生が大縄
跳びがうまくいっていきなかつたので、今
度は私たちが教わったことなどを1年生
に教えました。初めはあんまりだつたけ
れど、本番では25回も跳べていたので、
1年生の勝負強さと先生のアドバイスは
本当にすごいなと思いました。

そして、いよいよ私たち2年生の時が
きました。練習ではたくさん跳べたけれ
ど、今日跳べなかつたらどうしようと思
張と不安でいっぱいでした。しかし、そ
れは一瞬でなくなりました。スタートし
た時の「せーのー」の音がきれいにそろ
い、最初から10回以上跳ぶことができ、
大丈夫と思えるようになりました。その
後もたくさん跳べて、回数は何と53回。
こんなにも跳んだんだという驚きとうれ
しさでいっぱいになりました。

最初は15分以上あつても跳べなかつた
50回を、1分30秒で跳べたことは本当に
誇らしいです。来年も今年の記録を超え
ていけるような強い団結力を持てるよう
にしたいです。

2年生としての体育会

2年5組 田中 宏樹

10月1日に中学校生活で2回目の体育会があった。1年生だった時の体育会とは、1年生という後輩がいる立場からの2年生の体育会は少し違うように思った。

僕がマスコットの仕事をしていたとき、先生に注意された。それは、自分にマスコットの担当としての自覚と、1年生の手本としての2年生の自覚がなかったからだ。それから、体育会までのマスコット作りや、応援練習などの様々な面で、誰かが自分を見ているんだと感じ、真剣に取り組んだ。

また、出場したムカデ競争では、人



のことを考えることができたと思う。ムカデ競争は、5人が一列になって足を結び、走る速さを競う競技だ。そのため、早く走ろうとしてペースを速めるような自分の都合しか考えない、自分勝手なことをすると、こけたり、つまずいたりして他の4人に迷惑をかけてしまう。ムカデ競争の練習をするのに従って、最初の頃はとても遅く、こけることも多かったが、だんだんとペースが速く、こけることも少なくなってきた。それは、人のことを考えることができたからだろうと感じた。

綱引きでは、人と協力することができたと思う。みんなと力を合わせ、協力しなければならぬ綱引きで、5組は2位だった。人と協力したからそんな結果にすることができたのだと感じた。

このように、僕は、物事に対し真剣に取り組むこと、人のことを考えること、人と協力することの大切さや楽しさを今年の体育会では学ぶことができた。これからの学校生活にも生かしていきたい。そして、3年生になって行う体育会でも、多くのことを学び、楽しみたい。

団長

3年1組 中塚 海音

「1組は、俺が引っ張って行く」僕はこの思いを胸に団長に立候補しました。

応援合戦初日の練習が始まる前、僕は1、2年生が元気なクラスであってほしいと願っていました。そして練習が始まり、応援歌を歌うとやはり僕の期待を裏切らない元気良さで、僕はこの時、「1組が絶対優勝できる」と確信しました。

「1組、行くぞ！」そして、中学校生活最後の体育会が始まりました。僕は1組の「団長」として、今日1日を、1組が全種目1位を取ってやるという気持ちで臨みました。開会式での選手宣誓では、クラスを越えた団結力というものを感じ、より一層優勝してやるという気持ちが増しました。

そして、応援合戦。僕は始まる直前に、心の中で、「何も考えず、応援合戦を全学年で一番楽しんでやろう」と思いました。練習通り完璧な演技が出来たので安心しました。しかし、現実はその甘くはありませんでした。結果は、兄弟学級の部と学年の部は優勝でしたが、応援合戦の部は4位でした。

でも、最後まで全力を尽くしてやり遂げられたので後悔はありません。

正直、僕は、最初の方は不安でいっぱいでした。そんな僕を後押ししてくれたのは、吉森先生でした。毎日のように「あなたなら出来る」と言い続けてくれて、僕の心の支えとなってくれていました。本当に感謝でいっぱいです。

僕は、1組の「団長」をすることが出来てとても嬉しいです。本当に一組で良かった。

「1組最高！」

完全燃焼体育会！

3年4組 杉本 彩代

中学最後の体育会。「完全燃焼」は「ける青春」をテーマに体育会までの約3週間、日々全力で取り組みました。

私は衣装のリーダーとして後輩と共にがんばりました。以前はリーダー等前に出て指示を出す立場ではなかったけれど、リーダーとなって初めて前に出る人の大変さに気づきました。ちゃんと指示を出せるのか、指示を聞いてくれるのか、とても不安でいっぱいでした。でも実際顔を合わせてみると、指示も聞いてくれ



て、それ以上に自分たちから質問してくれて作業がスムーズにできました。これは先輩であり、リーダーと云う立場になったからこそ経験できることだと思えます。また、衣装を作るにはたくさんの人に協力してもらいました。先生、

衣装の後輩、団員にも手伝ってもらい、中1、中2、中3、幹部の衣装はできました。特に大変だったのは中3の衣装です。上の服の大きさが良いようにできなくて、日曜日など学校が休みの日にも衣装のために集まって作りました。女子のスカートも丈の長さが長すぎて一つ一つ切るようになってしまい、思ってもいないハプニングも起こりました。計画通りにいかないこともあっていらだつこともあったけれど、できたときの達成感はとても大きなものでした。

今回の体育会での経験はとても良いも

のになりました。この経験を踏まえて何にでも精一杯取り組む大切さに改めて気づきました。体育会ではたくさんのごことを学べたので次の行事でも今回学んだことを活かして取り組もうと思います。また、何をするにも体が元気でないとけないと思うので体調管理をしっかりしたいです。



高2修学旅行 北海道コース

北海道へ修学旅行〜1日目〜

1組 信岡 駿良

修学旅行の朝は早く、とても辛かった。夏が近いとは言っても、まだまだ肌寒く、重いキャリーバッグを引いて行くのは面倒だった。違うコースはもっと早いと聞くから、親も大変だとほろっと考えながら学校へ向かった。

学校へ着くと、皆嬉々として友達と話していた。修学旅行って皆急激にお洒落になるよなあと余計な事を考えたが、周りの活気に流され、徐々に会話が弾んでいた。

バスに乗り、向かったのは広島空港。荷物の検査は相変わらず緊張した。ベルトは外す？ どうする？ みたいな事をばかみたいに心配した。飛行機に乗り、窓から外を眺めて美しい鳥瞰に感動……したかったが、通路側だったので就寝。

函館に着くと、冷房を効かしているのかと疑う程寒かった。そのままバスへ乗り五稜郭へ。タワーから見える五稜郭は

形が整っていて荘厳だった。反面、真っ赤な屋根の貸しボート屋が奇抜で、どこか間の抜けた印象も受け、面白かった。

その後、ここへ泊るのかと驚嘆した豪壮なホテルを横目に、歴史ある花びしホテルに着いた。夕食を済ませ、夜景を観に函館山へ。山頂は大変混雑していて、必死で背伸びをし、腕を伸ばしてシャッターを切った。写真には深い黒色の海と空によく映える細かな灯の粒が散らばっていた。粒の一つである車の運転手は自分が美しい夜景を描いているとは思っていないだろう。私は粒の一つであると感じたら良いなと思った。

美質な函館

6組 秋山 蒼天

僕は北海道修学旅行に行き、多くのことを学び、体験しました。5日間の中で特に楽しかったのは2日目の函館の自主研修でした。

函館の自主研修で、まず僕たちは赤レ

シヨップに行きました。ラッキーパーエロで僕たちは一番人気のチャイニーズチキンバーガーを食べました。甘辛でジューシーなからあげとシヤキシヤキとした食感のレタスが合わさって、今まで食べたハンバーガーの中で一番おいしかったです。北海道だけでなく岡山にも置いてほしいと思います。

次に市場に行っておらつと歩いた後、函館でおいしいと言われている塩ラーメンを食べに行きました。あっさりしていてハンバーガーを食べた後でもさらつと食べられました。時間が短かったのですが、ほとんど食べてばかりでしたが、とても楽しい時間でした。また行く機会があるならば、ゆっくり観光してみたいと思いました。

最高の仲間と

1組 荒島 美音

誰もが楽しみにしていたであろう一日が始まった。岡山での天気予報ではあいにくの雨。しかし北海道は太陽が照り、驚くほどの晴れだった。

そんな中、朝はニセコでアウトドア・インドアをチームに分かれて行なった。



私はラフティングを選んだ。北海道の雄大な川を下る。女子6人で下れるのか、正直不安はたくさんあった。川を下り始め、私は別世界にいるような気がした。岡山とは違う涼しい空気に川の音。初めは揺れるだけで怖かったが、慣れてきてみんなでボートの上に立ったり、別のチームと水をかけ合ったりと、最後まで



ンガ倉庫群に向かいました。赤レンガ倉庫群では特に何かを買ったりはしませんでした。外から見た風景もとてもきれいでした。特に中はとても落ち着いた雰囲気。僕が歩いた後、僕たちはバスガイドさんに勧められて行こうと思っていたラッキーパーエロというハンバーガー

本当に楽しむことができた。北海道の水温は10度。皆で最後、川へ飛び込んだ瞬間の水温の冷たさを私はずっと忘れないうと思う。

午後からは、札幌・小樽での自主研修だった。私たちの班はまずお土産屋さんへ行き、テレビや事前学習で調べた様々な特産物を家族や友人へ買った。そのあとオルゴール館へ行き、札幌行きの電車に乗った。たくさん並ぶビルの間で時を刻むテレビ塔や時計台。テレビ塔の天文台で見た札幌の景色は本当に美しかった。北海道は広く、美しい街だと改めて感じた。晩には皆でラーメンを食べると決め、札幌ラーメンを食べた。岡山で食べるラーメンより一層おいしく感じられた。

班の皆で計画を立てた場所には全て行くこともでき、本当に最高の一日になった。また機会があれば訪れたい。

ボルネオオランウータン

1組 金尾 涼乃

北海道での四日目の朝、今まではと違って変わって、空には灰色の雲がかかり外は小雨が降っていた。

バスの中で小さなため息をもらすと、私は窓から手元のしおりへ目を移す。旅程の欄にしっかりと書かれた「旭山動物園」の文字に、私はもう一度ため息をついた。

私は動物園が苦手だ。園内に響くあのかたたましい鳴き声も、動物特有の獣くさいあの臭いもどうしても私は好きになれない。

長い時間バスに揺られた後、動物園の前でバスが止まった。私はバスから降りると重い足取りで皆の後ろについて行く。出口前の少し広いスペースで止まると皆で写真を撮ってガイドさんの説明を聞いた。私はその間、どこからか聞こえてくる叫び声のような動物の鳴き声に顔をしかめつつ、どうすれば鳴き声や臭いを避けながら多くの動物を見ることができるとか考えていた。私一人だけで見てまわるのではない。獣特有の臭いのない動物だけを見てまわることはできないのだ。バスガイドさんのお話を半分ほど犠牲にして出した結論は、「一ヶ所にかける時間を減らして、早く見終えてしまおう」というひどく単純なものだった。

アザラシ、キリン、ホッキョクグマ、



ニホンオオカミにエゾジカ。携帯の容量を使い尽くす勢いで大量に写真を撮りながらも、私は足早に歩き続けた。サル舎の辺りまで来て、ここも早く立ち去ってしまおうと私は小さな建物の中へ入った。そこにいたサルを見て私は思わず立ち止まった。自分よりも大きいであろうそれは、壁際に座ってじっとこちらを

見ていた。その視線に思わず私は息を飲んだ。それはしばらくこちらを見つめた後、まるで興味がなくなつたかのように、ふっと目をそらすとゆっくりと動き始めた。私はその様子を視界にとらえながらその建物を後にした。建物を出た後で、初めて看板のようなものを見て、そこがオランウータン館であったことに気づいた。思い返してみれば、他の建物の前にも同じようなものがあつたような気がした。早く見終えたいと思うあまり、それすらも見えていなかった。途端に私は自分を恥ずかしく思った。

昼食を食べ終え、バスに乗っても私はあのオランウータンの目が忘れられなかった。

雨が止み、空が晴れたのは次の日のことだった。

すばらしい旅に感謝

6組 塚本 瑠菜

修学旅行最終日、昨日まで降っていた雨は上がっていました。少し肌寒い朝でした。

ホテルで朝食を摂った後、私たちはアイヌ民族博物館へと向かいました。毎日

見てきた北海道の雄大な自然がバスを通り過ぎていき、淋しく感じられました。到着するとアイヌの民族衣装を着た方が迎えてくださり、アイヌの文化や今何気なく使われているアイヌ語、アイヌの古式舞踊などを見たり聞いたりしました。昼食はアイヌの人々が食べていた三平汁、鮭の串焼き、稗の入ったご飯を食べ

ました。北海道の先住民族であるアイヌ文化に触れたことは、とても良い経験となりました。しかし、このアイヌ民族博物館がなくなってしまうことを聞いて、文化を伝える場所が一つなくなることは残念に思いました。金光学園の修学旅行で最後に訪れることができてよかったです。



次にノーザンホースパークへ行きました。そこでは、普段聞くことのできない馬の足音や園内の緑を十分に満喫することができました。

そして新千歳空港へ行きました。まだお土産を買えていなかったもので、たくさん買いました。飛行機の中では多くの人

が疲れて寝ていました。北海道とお別れするのはとてもさみしかったです。この旅行を通して私は友達の輪が広が



り、友情が深まったと思います。北海道の文化に触れることもできてとても良かったです。お世話になった先生方、家族、旅行先の運転手さんやガイドさん、すべての方に感謝したいです。



高2修学旅行 オーストラリアコース

オーストラリアへ胸わくわくの出発

1組 川本 遥

6月12日、月曜日。修学旅行オーストラリアコースの私達は、午後2時に金光学園の高校棟前に集合した。普段の制服姿とは違い、私服で、これから仲の良い友達と一緒に海外へ行くということ、みんなワクワクしていた。

出発式では、校長先生のお話を聞き、代表生徒のユーモア溢れる挨拶で締めくくり、それぞれのバスに乗り込んだ。関西国際空港までの約4時間、みんなゲームをしたり、わいわい話したりして楽しんだ。関空に着き、晩ご飯を食べるための自由時間が1時間ほどあった。少しの間日本食が食べられないということ、皆で何を食べるか、関空を一通り見て回ったが、相談して決めた結果、中華料理になった。皆で楽しく食事を終えた後、飛行機の出発時間が遅れるとのことで、機内で軽く食べる物をコンビニで買った。その後、モノレールに乗って搭

乗口へ向かった。飛行機に乗り込むと、他校の修学旅行生も乗っていた。自分達の席に着き、シートベルトを着用し、飛行機が動き出した時には、窓の外を見てみたり、友達と笑い合ったりと、ざわついた機内から皆のワクワクした気持ちがよく伝わってきた。しばらく乗っていると機内食が出てきた。「機内食は不味い」と多くの人が言っていたため、あまり印象は良くなかったが、食べてみると笑顔がこぼれたので、少し安心した。軽い食事を終え、待ち時間の疲れもあつてか、少しずつ静かになり、これから待っているオーストラリアへの期待を抱きながら機内で就寝した。

すばらしいオーストラリアの自然

4組 安達 しほ

朝6時にケアンズ空港に到着し、入国審査などを済ませてバスに乗車すると、ケアンズ市内をガイドさんが案内してくれた。飛行機が少し遅れて着いたので、

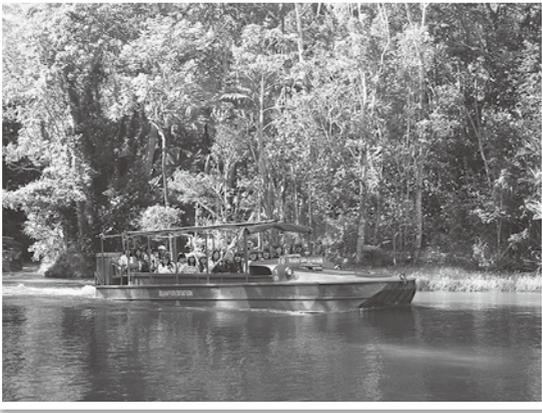
2カ所ほど行けなくなった場所があった。

まず最初に行った場所はボクニックガーデンだ。そこでは日本にはない珍しい植物がたくさんあった。私が歩いていた時、目の前に黒と赤の鳥が通った。珍しくてびっくりしたので、思わず写真を撮ってしまった。

次は、スカイレールという乗り物に乗って、上空からの景色を見た。だんだん高くなるのでちよつと怖かったが、景色がきれいだったので良かった。

その後はミニ動物園に行った。そこにはオーストラリアの動物がたくさんいた。カンガルー、コアラ、ワニ、ディンゴなどだ。カンガルーは放し飼いにされていたので、自由に触れた。とてもかわいかった。アボリジニの文化を体験することもできた。ダンスショーも見ることができ、独特なダンスでもしろかった。そこでお昼ご飯を食べた。カンガルー肉やワニ肉などがあった。私はカンガルー肉に挑戦したが、意外とおいしかった。

ステイ先であるアサートン高原に向けてバスで出発し、ホストファミリーと合流する場所に到着した。いよいよファミ



リーとご対面。正直とても不安だった。でも、マザーと会った時、とても優しくうな人だったので安心した。英語が通じるかどうかという不安はあった。この日の晩ご飯も、とても美味しいものを用意してくれた。これからのどんな体験が待っているのか、とても楽しみに became。

オーストラリアの文化に触れて

4組 坂口 小枝

修学旅行に行く前は、どんな英語を話そうか、お土産は何がいいかなど、とてもワクワクしていた。しかし、いざオーストラリアに行き、ファームステイ直前になると、自分の英語が通じるのか、私たちが快く迎えてくれるのだろうかなど、不安でとても緊張した。

ホームステイした家は数匹の牛と鶏、小さな馬、そして犬と猫が一匹ずつの小さなファームだった。集合場所のホールから家までは40分ほどあり、車の外の景色は日本では絶対に見られないほどの高原が遠くまで続いていた。

車の中ではほとんど会話をすることができなかった。ホストマザーの話す言葉は聞き取って理解することができたが、

自分の気持ちを瞬時に英語にして話すことができなかった。オーストラリアに来たものの、初日と2日目の昼までは日本語で喋ることが多く、全く英語を話すことに慣れていなかった。語彙力の無さや思ったこと、感じたことをすぐに相手に伝えることができないもどかしさでいっぱいになった。

家に着いて動物たちや部屋の紹介が終わると、夕食の時間。この日の夕食はオーストラリアではポピュラーなポロネーズとセサミ入りのパンだった。デザートには2色のゼリーのパフェが出てきて、どちらもおいしかった。また、ホストマザーはデザートの際に今回のホームステイ中の日程を立ててくれた。日時と内容のこと細かくメモに書きながら作ってくれた。

翌朝の朝食はシリアルと飼っている鶏の産んだ卵で作った目玉焼きとパンで、オーストラリアでは有名なベジマイトを塗って食べた。その後は小さな町や滝に連れて行ってもらった。ランチは家の庭で外の綺麗な景色を見ながら、気温も丁度良く、とても穏やかな時間を過ごした。午後は有名な大きな滝へ連れて行っても



らい、その後マザーの友達のパツファロー牧場に連れて行ってもらった。当然初めてのパツファローを見て、その大きさや迫力に驚かされた。夕食はラム肉と野菜で、デザートは手作りアップルパイ。ラム肉は柔らかくてとてもおいしく、アップルパイにはカスタードクリームをかけて食べた。

今回、ファームステイを通して、日本とは全く違う文化に直接触れることができた。驚くことや、なるほどと納得するようなことばかりで、テレビやインターネットによる間接的な情報ではなく、自ら経験するという貴重な体験ができて良かったと思う。

ファームステイの思い出

4組 茅野亜衣子

2日目から5日目にかけて、オーストラリアのアサートン高原という場所では、ファームステイを体験した。ステイ先では、日本ではできない経験をたくさんすることができた。

ファームステイでは、いろいろな所に連れて行ってもらった。ホストマザーはとても親切な方だった。まず、町にある小さな土産物屋に行った。ドリームキャッチャーについて私たちに分かりやすい英語で説明してくれた。次に、自然博物館に連れて行ってもらった。そこでは、とても貴重だというツリーカンガルーの生態や、噴火によってできた湖について教えてもらった。近くの林の中を一緒に散歩して、ツリーカンガルーを探したが、残念なことに見ることはできなかった。その後、緑茶の広大な畑と工場を見学した。オーストラリアの緑茶は、日本のものと香りや味が違った。緑茶というより紅茶に近いような気もしたが、とてもおいしかった。そして驚いたことに、畑の近くの木々の上でツリーカンガルーを見ることができた。マザーが「と



てもラッキーだ」と言っていた。

昼は、湖の付近でピクニックをした。マザーの手料理はどれもおいしかった。湖はとても大きくてきれいだった。午後は高台のような所へ出かけた。そこからは遠くの牧場や畑が見渡せて、全員で記念撮影をした。また、町で一番大きな牧場を見学させてもらった。ちょうど二百頭の乳牛が搾乳されるところを見ることが

ができた。牛が自ら搾乳器に向かって行くのに道路を渡って行列をなす光景はとても面白かった。

夜は家の庭でバーベキューをした。ハンバーグもソーセージもステーキも全て牛肉で、マザーは「日本では牛肉は高いけど、オーストラリアには牛がたくさんいるから安い」と笑っていた。牛肉のソーセージは初めて食べたけれどとても美味しかった。オーストラリアでは本当によくバーベキューをすることも分かった。

ファームステイ最終日はあつという間だった。最後に車の中で班員で書いた手紙を渡した。マザーがとても喜んでくれて嬉しかった。バスに乗る時は、多くの人が泣いていて、私も泣いてしまった。ほんの数日しか関わっていないのに、別れるのは悲しかった。マザーは「いつかまた来てね」と言ってくれた。

ファームステイは私にとって初めての体験ばかりで、緊張もあつたが良い思い出になった。是非またオーストラリアに行き



たい。

ケアンズから船に乗ってグリーン島へ

6組 福井 悠人

6月17日朝、三日に渡るアサートン高原でのファームステイを終え、それぞれのファミリリーに別れを告げた。

それから向かったのは、空、海輝く観光名所グリーン島である。学園生総勢90

名を乗せた客船は、グリーン島に向けて前進を始めた。波風激しく、私達の心と体を揺らした。グラグラの船、うずうずの気持ち、2つのリズムが交わった時、気持ちの最高潮と共に緑の島、グリーン島に着いたのだ。初めに目にとまったのは、珊瑚が飾る澄んだ海。

近づくにつれ開いていった青空も私達を歓迎してくれているようだった。それからはみんな思い思いにオーストラリアの海を楽しんだ。シユノーケリング、グラスボトムボート、ビーチフラッグ。目の前にはずっと青が広がっていた。初めて見た水平線は緩いカーブを描いているように美しく、その壮大さを感じずにはいられなかった。それぞれの体験で違う魅力を感じながら、私達は活動最終日という寂しさに、めいっばい思い出を詰め込んでいた。

その後はケアンズシテイープレイス観光。体力が残っていなかったというのが正直なところだが、班でお土産を探して回った。青信号の短さ、夕暮れの紫色、ここでもまた新しい気づきがあった。友達との思い出も一段と増えた一日だった。

世界の中の自分を感じた

7組 中原 悠吉

6日間あった修学旅行もあっという間に最終日が来てしまった。朝ホテルで景色を見て、私は楽しかった修学旅行も今日が最終日と思うと、一気に悲しみがこみ上げてきた。

午前8時頃、ホテルで最後の朝食を食べた。日本へ帰る準備をした後、午前10時頃私たちを乗せたバスはホテルを出発した。本当にオーストラリアを離れるんだと思った。バスはケアンズ国際空港に



到着、出国審査を済ませ、機内に乗り込んだ。

思い出せば、この修学旅行は、観光地へ行って楽しんだだけでなく、たくさん経験をした旅行でもあった。ケアンズに着いた時は、私は期待と不安を背負っていた。初めての入国審査、オーストラリアは厳しいことで知られているので、本当に大丈夫なんだろうかと思っていた。無事着いて、ケアンズ国際空港の玄関ロビーでケアンズの景色を見た時はとても嬉しかった。

ファームステイではいろんな所へ連れて行ってくれたし、自分の手土産もすこく気に入ってもらえ、とても嬉しかった。しかし、自分の英語力が足りず、なかなか話すことができなかったのは残念なことだった。ホストマザーは私たちにとっても優しく、親切にしてくれた。

ケアンズ国際空港を離陸し約7時間のフライトを終え、午後7時半頃、関西国際空港に到着した。日本に帰った時、この旅行もついに終わったんだと思った。関空からバスに乗り、金光の下淵駐車場に着いた時はとても眠たかった。親と再会し自宅に帰り、爆睡した。



私にとってこの修学旅行は一生忘れることのできない楽しい旅行だった。オーストラリアと日本の違いを肌で感じられたことはすごく良い経験になった。オーストラリアに行った人はきっとそう感じているだろう。また、日本の文化だけを良いと思うのではなく、世界中の文化を楽しめる、一つのきっかけになったに違いない。

高2修学旅行 シンガポール・マレーシア

異国の匂い

6組 水田 健斗

私は今回の修学旅行でシンガポールへ行った。私にとっては初めての海外旅行だったので、楽しみだった。

国内線には今まで何度か乗ったことがあったが、国際線は初めてで出国審査、入国審査には少し手間取った。機内ではとても多くのサービスがあり、少し驚いた。

シンガポールに着き、初めに思ったことは、匂いが違うということだ。国によって匂いは違うということを知り驚くと同時にこれから異国で過ごすのだと考えるとともにわくわくした。

その後、レストランに行き夕食を摂った後、マライオン公園に行き、マライオンを見た。想像していたより実物はずっと大きく、迫力があった。ライトアップされ、とても格好良かった。近づくともしぶきが飛んできて少し濡れた。

こうして、私の修学旅行の一日目が終了した。ホテルはとても良い設備で、翌

日からの希望を胸に眠ることができた。

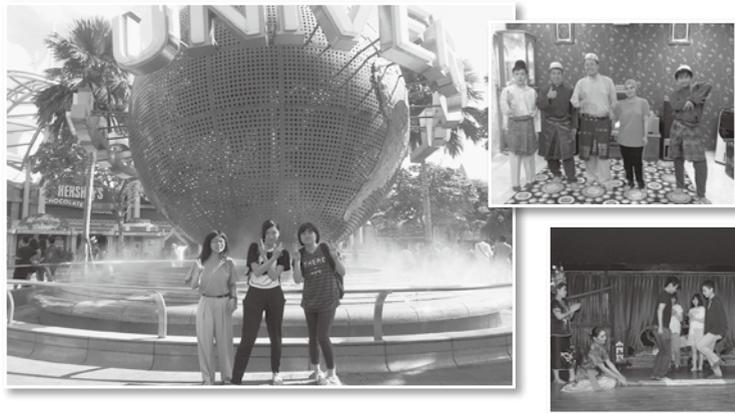
マレーシアでのホームステイ

5組 細川 未希

第二日目は、マリナー・ベイ・サンズ・スカイパークを観光した後、ホストファミリーと会って過ごすスケジュールだった。

マリナー・ベイ・サンズの頂上、スカイパークでは、シンガポールで代表的な建物や施設を眺めることができた。青空にガラス張りのビルや現代的な建造物が溶け込んでいる様子は、シンガポールが先進国であることを実感させられるものだった。

マレーシアでのホームステイでは、プライ村の人々と一緒に過ごし、そこでの生活を体験した。家の建築様式や衣服など、日本との違いを挙げればきりが無い。そんな体験の中で最も心に強く残っているのは、何とんでも現地の人たちの優しさだ。私が拙い英語で話してしまった





時にも理解しようと努めてくれたり、分からないことや困っていることがあると、すかさず声をかけてくれたりした。いつでも、どの場所でも、人を思いやることは万国に共通する温かさなのだと、しみじみと感じた。

日本とは全く違った異国の地でこのよ
うな体験ができたことが、今回の旅行で
最も有意義で貴重なことだったと思う。
ここで学んだことは、思い出としてはも
ちろん、これから過ごしていくどんな場
面でも活かせるよう、色褪せないように
大切に心にしまっておきたい。

ブラザー&シスタープログラム

3組 海老原 航

二日分の疲れがまだ残っていました
が、当日のイベントを精一杯楽しみたい
と思えました。三日目の朝は、マレーシ
アのホームステイ先の家で迎えました。
朝食は、カレーのようなスパイシーな料
理などの温かな家庭料理でした。ホーム
ステイ先の家族にお礼を言って別れた
後、シンガポールに戻ってブラザー&シ
スタープログラムを行いました。現地学
生と共にシンガポールの都市を回りまし

光することにしました。女子はUSSSに行き、
男子は前もって計画をしておいた場所に
行くことにした。

自分達はまず、お土産を買おうと決めて
いたので、お土産の店に入ることにした。
一大観光スポットということもあり、店
の数も種類も豊富だった。お土産を買っ
た後、イギリス軍が戦争に使っていた防
空壕や、スカイウォークという、高所か
らの景色を楽しめる所に行ったりしてい
ると、楽しかった時間は過ぎて、早くも
集合時間となっていた。そして、全員が
集合した後、ナイトサファリに行った。
そこでは、車に乗り、間近に夜の動物を
見ることができた。日本にはいない動物
もいたので、とても貴重な体験ができた
と思う。また、四十分も楽しめたため、
多種多様な動物を見ることができた。ナ
イトサファリが今回の修学旅行最後の観
光スポットだったため、その後、空港に
向かい、日本に帰ることとなった。

貴重な体験ができたことに感謝

5組 藤井 健

五日目。振り返ってみると、移動しか
していない。まず飛行機に乗り、シンガ

ポールを発った。皆、すぐに眠りについ
たが、僕は飛行機で寝るのが得意ではな
いので、音楽を聴きながらこの五日間を
振り返ってみた。

最初は正直、行きたくなかった。人数
が例年に比べ劇的に少なく、仲が良い人
もあまりいなかった。だが、一日目が終
わる頃には、そのような気持ちは不思議
と消えていた。

美しい夜景、高いビルが立ち並ぶ中に
必ずある緑、頭上を舞うゲームでしか見
たことがないような戦闘機。全てが輝い
て見えた。

羽田に着き、飛行機を降りた。搭乗ゲー
トをくぐる時脳裏をよぎったのはシン
ガポールに着いた時の同じ光景だ。降り
た瞬間から立ち込める香水の様な匂い、
暑く湿度の高いじめじめとした空気。こ
こは日本ではないんだと一瞬にして感じ
させたあの時の光景だ。

見た目は全く同じなのに何もかもが違
う。

「あ、日本に帰ってきたんだ」そう思った。
その瞬間、シンガポール・マレーシア
での体験すべてが走馬灯のように蘇り、
出発前からは考えられないような、「も

た。デザートで昼食を食べました。正直
日本の方が美味しかったですが、貴重な
体験ができたと思えました。バスに乗っ
て都市を動き回りました。この時、生ま
れて初めて二階建てのバスに乗りまし
た。新鮮な気持ちになりました。生まれ
て初めてドリアンを食べました。正直あ
まり美味しくなかったです。夕食の時間
の頃に現地学生と別れました。この日は
とても楽しく、有意義な時間でした。得
た物は大きく、外国人との会話で生かして
いきたいです。シンガポール&マレー
シア修学旅行の中では、最も楽しいと感
じた日でした。

セントーサ島観光

1組 檀上 凱紀

四日目。修学旅行も終わりに近づいて
きた。自分達は朝からシンガポールでも
かなり有名な観光スポットである「セン
トーサ島」に行った。そこにはUSSSや
マライオンなどなど、世界中の人が
知っているような名所が何か所もあり、
そういうわけで、観光客もかなり多かつ
た。セントーサ島では自分達は男子四人、
女子四人のグループに分かれて、島を観

う修学旅行は終わったんだ」という虚し
い気持ちに心があふれた。

この旅行で経験したこと、培ったこと
は一生忘れないと思う。

このような貴重な体験をさせてくれた
親に心から感謝している。

これをバネにして、受験勉強など様々
なことを頑張っていこうと思う。





Konko Gakuen English Camp2017



〈体を使ってゲームをしよう〉
頭を使った後は、体を使って遊びました。4人で持ったビニールシートの上に、水風船を割れないように上手く投げ入れられるか？ 投げる人、キャッチする4人全員の息がそろわないと意外に難しいこのゲーム。
班ごとの対戦で行われ、盛り上がりました。
キャンプファイヤーで行う出し物



7月31日(月)～8月1日(火)に、遙照山・藤波池キャンプ場にてKonko Gakuen English Camp2017が行われました。
国際交流クラブのメンバーに、やってみたいイベントをアンケートで聞いてみたところ、「キャンプ」という意見が最も多かったことから始まったのが今回の企画です。
参加メンバーは、中1が21名・中

〈世界の料理を作ろう〉
2日目は、学園の調理室で留学生の故郷の料理と一緒に作りました。初めて見る料理に皆興味津々。みんなで協力してあつという間に完成し、おいしく頂きました。

8月1日
さらに留学生のオスカー先生指導のもと、ケニアの「ハクナマタタ」ダンス。火を囲んで楽しく踊りました。そして最後は日本の夏といえば！の花火で夜の集いは終了しました。

〈夜の集い〉
キャンプファイヤーの点火とともに、夜の集いが始まります。ビートルズの名曲を熱唱したり、動作だけを見て、何を表しているのか当てるゲームを行ったり、英語でクイズを行ったりなど盛りだくさんの内容でした。
を各班で考えます。留学生も入って、出し物の企画構成を英語で行いました。その後の夕食はバーベキュー。
生徒たちの気分も最高潮へ！

〈生徒の感想から〉
・留学生の人達とたくさんふれ合うことができて、すばらしい取り組みだと思った。
・外国の人としゃべる機会があまりないので、このキャンプで話せてよかったです。
・自分なりに英語で話せたのでよかったです。
・1プログラムずつが心に残り、一瞬一瞬がとてもよいものでした。また参加したいなと思いました。



3が2名・高1が2名の計25名でした。
さらに岡山県に住む留学生6名が参加。中国・カンボジア・ドイツ・ケニア・ミャンマーの留学生たちは生徒の班に交じって、英語での自己紹介や出し物の企画などを一緒に行いました。
最初はぎこちなかった生徒たちも、時間が経つにつれて、笑顔があふれ、留学生の皆さんともサッカーをしたりおしゃべりをしたりなど、どんどん打ち解けていきました。
キャンプ後のアンケートの「来年もEnglish Campがあれば？」という質問には大多数の人が「ぜひ参加したい」と答えていました。
そんな魅力あふれるキャンプの内容を簡単に紹介します。

7月31日

〈開会式・アイスブレイキング〉
お互いのことを知ろう！ というテーマのもと、英語で自己紹介。各班を留学生が順番に周り、生徒は繰



り返し英語での自己紹介を行うことで、少しずつ英語に慣れていきました。
〈キャンプで使う英語を学ぼう〉
もし無人島で暮らすことになったら、何が必要？ 寝袋？ 食料？ 火をおこすマッチ？ それとも……。
各班に与えられた金額を超えないように、キャンプで必要なものを買ってみよう！ という架空のお買い物ゲームを行いました。もちろん相談・購入は全て英語で行いました。

音楽部吹奏楽団訪米



高3として参加したアメリカ遠征

高3 藤川 美羽

私は高校3年生で引退した身ながら今回のアメリカ遠征に参加した。なぜアメリカ行きを決意したかという点、この部活なら絶対にこの大舞台を無駄にしないと思ったからだ。このバンドのメンバーとして行くことに意味があると思った。アメリカ遠征は期待通り本当に意味のあるものになった。行く先々で今まで受けたことないほど歓迎され、あらゆる場面で多くの人達が私達を受け入れるため大変な準備をしてくださったのを感じた。この10日間で後輩の悔し涙や嬉し涙を沢山見て、引退した高3としてバンドが成長して行くのを感じた。また歌で観客を感動させることができ、言葉が違っても気持ちがあれば相手に伝えることができるのだと改めて実感した。親や裏で



支えてくださった想像もできないほど多くの方々へ感謝し、この最高の経験を、受験やその後の人生に活かしたい。これからもこの部活を応援しています。ありがとうございます。

最高の演奏会

高2 横藤田麻結

今でも私は、あの歓声は忘れることができない。それはアーカンソー州で行った最後のコンサートでの歓声だ。その本番は今までで一番上出来の本番だった。どの曲もどのソロも、どのスタンドも上出来だったと私は思う。

本番中、私は何度も涙をこらえた。ソロが成功するたびに涙が出そうになった。そして、アメリカでの最後の曲、『星条旗よ永遠なれ』がやってきた。この曲はアメリカの曲ということもあり、観客からも大きな手拍子があがる。それと共に私たちの勢いも高まる。すると私は、涙に耐え切れず、曲の途中で泣きだし、最後の一音だけ吹く始末に。曲終わりのスタンディングオベーションや、演奏会終了後にステージに一人ずつ感謝を言いにきてくれたことが、とても嬉しかった。



このメンバーでアメリカ訪問演奏に行けて本当によかった。多くの方々からの支えがあったからこそ大成功の本番だったと思う。

ホームステイを経験して

中3 井上 千聡

アメリカに行く前は、正直あまり外国には行きたくないと思っていただけに行ってみると帰りたくないと思えたほどいい経験になりました。

演奏面ももちろんすごく心に残る経験だったけれど、私は一番ホームステイがいい思い出です。英語が通じない私たちに、わかりやすく話しかけてくれたり、日本語に訳して見せてくれたりしました。アメリカの人たちはフレンドリーで、たくさんのお話や質問や体験をさせてもらいました。英語もすごく分かるようになったわけではないけど、少しは聞き取れるようになりました。だから、今回の訪問演奏をすることができて本当に良かったです。

アメリカは演奏したあとのリアクションが日本と全然違ってすごく大きなものでした。日本では経験できない体験をたくさんすることができたので行ってよかったと思います。このアメリカ訪問を活かして、今後も学習面と演奏面でも頑張っていきたいです。



ある日のホームルーム 中学3年4組



暑さも和らぎ、時折顔を出す涼しさを秋を感じることも増えてくる季節になりました。今回お邪魔したのは10月20日の6限、中学3年4組のLHRです。ほつま祭・体育会という3年生の2大行事を終え、クラスの団結力も強くなり、雰囲気もとてもよくなっている4組のみな。この日は、中国からJENESSYS中国訪日団が来校し、その生徒たちと交流をしました。

5限終了のチャイムの後、席の並び替えを済ませ準備を進めている間、4組の子供たちは楽しさと緊張と不安とでとてもソワソワした様子でした。6限開始のチャイムとともにJENESSYSの生徒たちが教室に到着し、交流が始まりました。

まず最初に、担任の平川先生から「日

本によろこそ！ 少ない時間ではありませんが、みんなと交流して日本の文化について触れ、たくさん楽しんでいってください！」という挨拶があり、生徒たちは各グループに分かれて自己紹介を始めました。自分の英語が通じるのかという不安と何から話したらいいのかという不安を抱えている生徒たちが多かったのか、なかなか緊張の色を隠せずでしたが、いざ話しかけてみると「意外と自分の英語は通じるぞ」「相手が話していることをもっと聞き取りたい」「もっと相手のことを知りたい」と思う生徒がどんどん増えていきました。また、自分たちが授業で使っている教材や身の回りの物・音楽も共通点になって話のタネにすることが分かり、みんな嬉しそうに話しかけていました。中国の生徒も最初は緊



張していてなかなか踏み出せずにいましたが、一生懸命自分たちに伝えてくれようとする4組の生徒たちの熱意を感じたのか、どんどん笑顔が増えていきました。

各グループでの自己紹介が終わると、日本の伝統的な文化の一つである「折り紙」を各グループで折り始めました。ただ折り紙を折って披露するだけでは中国の生徒たちもなかなか上手くできないといった様子だったので、生徒たちは頑張って英語で折り方を説明していました。「先生、この折り方はどういう風に伝えたらいいんですか」という質問が多く出て、平川先生もグループを回って一緒に考えて、「こういう風に伝えよう」とアドバイスをされるシーンもありまし



た。それでもわからない単語はお互いに相談し、身振り手振りのジェスチャーも交えて積極的に説明して、お互いの交流を深めていきました。初めは不安と緊張でいっぱいという表情だった子供たちが、何とかして自分が考えていることや伝えたいことを伝えるんだという意思を持ってお互い相談する姿を見て、4組の生徒には、どんな状況になっても考えて答えを出す「生きる力」が育っているということを、その時感じました。

「たくさん交流して、色々なことを学び、感じる事ができたのではないかと思います。今日は本当にありがとうございました。ありがとうございました！」平川先生の挨拶とともにこの日のLHRが終わりました。最後に生徒たちは自分たちが折った折り紙を中国の生徒にプレゼントしていました。自分の英語はちゃんと通じると分かっただ子供たちの表情は、自信がつき輝いているようでした。

中学校生活も残り4カ月ちょっと。どんな小さな経験でも、中学3年生の今まさにこの瞬間の経験というのは2度と来ないし、体験することもできません。無駄なものなんて一つもないんです。平川

先生はこのLHRが終わって話してくださいました。ほつま祭も体育祭も終わり、残る行事は卒業式・ゆずり葉の会のみ。クラスや学年で何を目標にし、どんなことを考えるのでしょうか。そしてどんなファイナレを飾るのでしょうか。



生徒入賞作品

▼第63回青少年読書感想文 岡山県コンクール 自由図書

佳作

『キリン』と幼き日の私

高2 渡邊 七海

「お前は私の子じゃないんだ」
「ありがとう、あなたは本当に優しい子」

この二文は、どちらも小説の中に登場する皆川厚子という人物が、息子でありこの本のタイトルでもある麒麟に対して放った言葉です。私が初めてこの本を読んだ時、この二文は特に印象に残りました。

私がこの本と出会ったのは中学1年の時です。4年前、思春期初期であった13歳の私にとってこの本は特別な本でした。本の中でたくさん使用されていた「天才」そして「家族」という言葉。この2つの言葉は物語を読み進める上で重要なキーワードです。独身である厚子は、天才の精子を提供する精子バンク「ジーニ

アスバンク」から2度精子を買い、長男の秀才、次男の麒麟を授かります。厚子による異常ともいえるような英才教育の下で育った2人。秀才は名の通り秀才に育ちましたが、弟の麒麟は突然学力が全く伸びなくなってしまう、厚子に捨てられてしまいます。その後麒麟は、「天才養成学校」というジーニアスバンクの精子で生まれた子供のうち落ちこぼれた子ばかりが集まる場所で11年間過ごし

ます。物語序盤では、厚子、秀才、麒麟の家族3人の団欒の様子が多く見られます。私はこの様子に親しみを感ずきました。私の家は私、母、弟の3人家族です。物語の中の家族と同じで父親がいません。そして、私が今までの人生の中で一番頑張ったことは秀才や麒麟と同じ「勉強」です。私は、小学6年の春に中学受験をすることを決め、それ以降、ほぼ毎日学校や塾で勉強をしていました。友達に誘われても、夏休みになると毎日行っていた、大好きだった学校プールが開放され

ても毎日塾で勉強をしていました。受験を決め塾に入り、教材をもらったばかりの時は、教材の問題がこれまでに1度も解いたことがないような難しいものばかりで、頭を抱え込んでしまうことが何度もありました。麒麟が勉強ができなくなってしまう部分を読んだ時、私の脳裏には受験で頭を抱える幼い私の姿が鮮明に映りました。

また、麒麟が父親について知ろうとして厚子に尋ね、怒鳴られる部分も麒麟にとっても共感できました。私は9歳の頃までは父親とも一緒に4人で生活していました。一緒に暮らせなくなった理由を知っているのに疑問にも不審にも思いません。しかし、麒麟のように5歳になつて父親の顔も見ることがなく、一緒に暮らしていない理由さえ知らないならきっと私も麒麟と同じようなことを考え、同じようなことを母に尋ねるでしょう。父親との離別は、9歳の、幸せなことだけを考えて生きてきた私にとって初めて経験した悲しい現実でした。私は今でも、もしも一つだけ現実を変えることができたら、父親も一緒に4人で暮らすよう変えるでしょう。9歳の私には悲しみを全て背負いきれず、家庭に居心地悪さを

感じるようになり、学校に救われていました。学校に行き、授業を受け、友達や先生と笑い合う瞬間だけは家族のことを気にせず過ごしました。この姿もまた、天才養成学校で絵の才能が開花し、大好きな絵に没頭する麒麟の姿と重なりました。

大切なものは、常に側にあると大切に気づきにくくなってしまう。逆に、側にならないからこそ日々の生活の中でありがたみを実感できます。片親家庭や両親どちらもがいない家庭が増加する現代、私以外にも麒麟のような辛い経験をした、またはしている子が今この瞬間にも世界中に存在するでしょう。元から親がいなかった子もいれば、両親の離婚や戦争、病気、他にも様々な理由で離れはなれなくなってしまった親子もいます。子供にとって親は生きる上、成長する上、大人へと自立する上でとても重要な存在です。私は9歳から今に至るまで、このことを何度も何度も痛感しました。そして、親に限らず、成長し自立する上で大切なものが欠けてしまった子どもはどのや人のありがたみを感じる機会が増え、よく理解していると思います。また、このことは子供に限らず親にも当てはまると

思います。私が一番最初に示した二文のうち二文目の、麒麟への「ありがとう、あなたは本当に優しい子」という厚子の言葉は、麒麟を捨てたことで失い、息子という存在のありがたさに気づいた故に出た言葉であると思うからです。家族の形は、各家庭によって様々です。親がいない家族、子供がいない家族、祖父母がいない家族、そして、家族や自分が障害を持つ家庭や、血が繋がっていない

い親子と一緒に暮らしている家庭もあります。思春期に入ると、そのことで悩む子供達も多いと思います。周囲に気になる時期は、周りや違う部分があることは恥ずかしくとらえがちです。しかし、家族の形が周囲と違うことが恥ずかしいことではないと思います。「家族」という形自体がありがたいものですから。

入賞おめでとう

▼平成29年度「明るく家庭いっしょに」の作文

佳作 中2 岡本れいら

▼平成29年度「小さな親切」書道コンクール

優秀賞 中2 赤沢 梨吏
入選 中1 山田 紋歌

▼平成29年度JA共済岡山県小・中学生書道コンクール

佳作 中2 赤沢 梨吏
入選 中3 塩谷 明美
中2 矢島 寧々
中1 山田 紋歌

▼第39回中学生による「税の習字」

玉島税務署長賞 中2 赤沢 梨吏
浅口地区租税教育推進協議会中国税理士会玉島支部長賞 中2 石原 采佳
玉島納税貯蓄組合連合会 会長賞
中2 吉田 未来
中2 矢島 寧々

Okayama Prefecture 12th English Letter Contest

To: Malala Yousafzai
From: Yukiho Yamamoto

高1 山本 幸歩

How are you doing? I heard your speech three years ago, when you were fifteen years old. At that time I was just twelve and didn't understand it completely. Now, I have reached the age when you made the speech. I listened to it again. I thought over what you said, especially about children's rights and girls' education, comparing it with my education. You said, "Let us pick up our books and our pens. They are the most powerful weapons. One child, one teacher, one book and one pen can change the world. Education is the only solution. Education is first." I was impressed by this. I look up to you as a girl of the same generation.

I also read your book titled "Malala". I can't believe that there is a group that forbids women from going shopping alone, playing and listening to music, and going to school. That's terrible. I learned about the "Malala fund" through the book. "World is family." you said. What an excellent idea! I was shocked to hear that you were shot on a school bus. You overcame a painful ordeal. I feel happy that you spoke up and are trying to change the world.

I live in Japan. We go to school every day and take classes properly and comfortably. In my country, most of the students feel it's natural that they go to school and learn there. But I realized it is rare good luck and we should appreciate this situation.

I know that there are so many children around the world who can't go to school. You have worked for them enthusiastically. You said, "It's not time to pity them. We must work. Don't wait."

Last summer, I joined a program to help poor children in other countries. I sent some stationary such as notebooks, pencils, and erasers to children in Laos. I heard that they were glad when they received them. I'd like to continue such things to help many children in need.

A society in which everyone can be educated is ideal. You taught us the importance of speaking up. I think you are one of the most powerful and strongest people and a symbol of a peaceful world. Your speech moves our hearts.

My dream is to be a teacher. I want to give education to as many children as possible. There is a shortage of teachers in Japan, so children might not be able to receive enough adequate education. I thought that I should try to protect the rights of children.

I'd like to visit your country and see you someday. I pray for world peace and I want everyone in the world to be educated equally as well.

Please take good care of yourself.

Sincerely yours,

(本人の原稿をそのまま掲載しています)

Okayama Prefecture 22nd English Essay Contest

My dream for someone

高2 紺藤 舞子

On July 24th 2016, I left Japan for the Philippines, to study there during the summer vacation as a representative of Japan for the "Tobitate" program. I chose this country because there was a language school there that my friends told me about. After I went to the language school, I joined a volunteer group to use English that I had learned and to research education there. I wanted to improve my English skill to become an English teacher at school in Japan, but I have learned more important things.

I was supported by many people in the language school. I had always been afraid to talk with someone in English before. A teacher gave me some advice. She said, "It's natural that anyone should make mistakes, but don't make the same one again. First of all, you should love yourself, or you won't find confidence. Love yourself!" She told me about my shortcomings, and made me smile when we were singing together. I was encouraged by what she said. That made me able to go sightseeing with about 15 others on holiday. In addition, I got to know a Chinese girl named Sunny, and we talked about each other's troubles. It was a lot of fun to communicate with people from other countries through English. I enjoyed speaking English from the bottom of my heart.

During the last week, I joined other volunteer activities. Speaking of volunteerism, I came up with the word "support". The group is not only helping people get out of poverty in the Philippines. They emphasize education to help the poorest children become leaders of the country and to change their circumstances throughout the country. I helped the people in Smokey Mountain, the orphanage, and their school. I found children who wanted to study but could not because they don't have enough money to go to school. It was a situation that I couldn't imagine in Japan. My heart was filled with sorrow. I decided I wanted to do as much as I could do for this country where I stayed for a month and that changed me completely.

Until now I hid myself and forgot about myself. However, the encounters with those teachers and my friends changed myself, and my feelings towards my dream became much stronger than before. It was only a wish, but it has changed to a real dream. I think that it is wonderful to exchange ideas with people from other countries using English and think about each other. I believe that understanding different cultures will lead to international cooperation. This is why I want to be an English teacher who can improve English education, because I had a good experience. I really appreciate my parents allowing me to go abroad in my school days. I'm trying to tell more people about my experience to understand the poor children with my friends. Never will I forget their smiling faces in spite of their poverty! I do hope I can meet them again in the future.

(本人の原稿をそのまま掲載しています)

探究

授業報告

探究(中3)

○原子力発電プレゼンテーション

2学期の「原子力発電プレゼンテーション」へ向けて、夏休みの課題ではメモリーツリーで原子力発電の今後についての大まかな流れをつかみ、準備を進めてきました。10月12日にはプレゼンの効果的な方法を川崎医療福祉大学の荒谷眞由美先生より学び、自分たちの発表の糧としました。11月よりクラスで2グループに分かれて、パワーポイントで作成したスライドでプレゼンテーションをし、お互いに評価し合い、クラスの代表を選出しました。



10月後半から文系3ゼミ(人文学、教育、グローバル)、理系5ゼミ(数学、物理、化学、生物、天文)に分かれて、本格的にゼミ活動がスタートしました。

探究II(高2)

○ゼミ活動

2学期前半は文系4ゼミ(教育、日本語・日本文学、現代社会、世界文化)、理系5ゼミ(数学、天文、物理、化学、生物)での個人またはグループ活動で研究を進めました。

理系ゼミは10月4日(水)に、文系ゼミは10月5日(木)に課題研究校内発表会を行い、研究の成果を発表すると同時に、プレゼンテーション力を養うことができました。また、助言者の先生方からアドバイスを頂きました。

2学期後半からは研究論文の作成に取りかかりました。



各種発表会への参加

7月17日に大阪教育大学で開催された「高校生天文活動発表会・天文高校生集まれ!」に天文ゼミの高2上川湜太君が参加しました。

7月30日に愛媛県総合科学博物館で開催された「第3回かはく科学研究プレゼンテーション大会」に高3高原健君が参加しました。

8月8〜10日に神戸国際展示場で開催された「SSH生徒課題研究発表会」に学校代表として天文ゼミの高2上川湜太君が「多点観測によるペルセウス座流星群の研究」で出場しました。

11月17、18日に筑波大学で開催された「第1回日本共生生物学会大会」に生物ゼミの高2畠山佳倫さんが参加しました。

受賞等



第9回坊っちゃん科学賞研究論文コンテストで高3高原健君の「スクランブル交差点における青信号の設定時間と車の待ち時間の相関」が入賞しました。

生徒会活動

○ゼミ活動

探究I(高1)

ほつま祭 9月9・10日の2日間、統一テーマ「輪(LINK)〜つながるきずな、つなげる青春〜」を掲げて、日ごろの成果を発表した。文化部・同好会12団体と高2美術選択者が展示部門に、ダンス部、音楽部吹奏楽団、コーラス、軽音楽部が演劇部門で日ごろの成果を発揮した。また、中高各クラスは展示15団体、演技11団体が発表を行った。高3有志の模擬店では生徒が生き生きと活動し、今年も大盛況であった。やつなみ保護者会はステンドグラスとハンドクラフトの展示、体験が行われた。また、今年も友愛セールや模擬店が盛況であった。テーマにふさわしい、各クラスの個性が発揮された取り組みとなった。

ほつま祭期間中には「一日入学PAR T II」として、小学生を対象にスタンプリーが行われ、併せて入試相談コーナーも設けられた。

なお、コンテストの結果は次のとおりである。

中学展示の部

- 第1位 1年2組 2組発!「糸」研究室
「糸の世界は糸をかし」
- 第2位 2年2組 夏だ!!2組だ!!お祭りだ!!「ナツコの知らない!!日本の夏へ」
- 第3位 2年4組 実は〜〜瀬戸内海with 2-4

中学演技の部

- 第1位 3年1組 「アタシ、天使。」
- 第2位 3年2組 Alice「世界がアリスの夢だったら」
- 3年3組 逃亡者
- 高校展示の部
- 第1位 1年6組 Bon voyage!
「フランスから日本へ」
- 第2位 1年1組 #instacate
「1年2組 Sea time
いつでも我らは海ってる」

高校演技の部

- 第1位 2年6組 Annie
- 第2位 2年5組 真夏のサンタクロース
- 第3位 2年2組 かくれもの〜かくれんぼで見つけたわすれもの〜

KOPの部

第1位 バレー部A
《中学生徒会》 8月10日にASAKUKU CHIISMホサミット2017が健康福祉センターシリウスで開かれた。毎年行っていた生徒交流会に変わるもので、事前に3月から浅口市内の5校が2回集まり、交流を深めるとともに、スマホの使い方について情報交換をし、考えてきた内容の発表をし、スマホ宣言の採択をとり、生徒代表と大人との対談があり、とても内容の充実したものとなった。

ほつま祭には、演劇部門には3年全5クラスと1年1クラス、展示部門には2年全5クラスと1年4クラスが参加した。展示は、夏休み中に様々なところに取材に行くなど内容の濃い展示となった。演劇では各クラスの熱演が見られた。体育会は10月1日に開催された。練習期間も含め天候に恵まれた体育会となった。ほつま祭以後、2週間程度の取り組みの中、3年を中心に兄弟学級が団結した素晴らしい応援合戦を展開した。中3によるマスケーム(集団行動)は学年の団結を感じさせた。学年の部第1位は1

年1組、2年5組、3年1組、兄弟学級の部第1位は1組、応援の部第1位は2組であった。

10年目となった『リレクレーション作戦』も1学期よりおこなっている。「日頃お世話になっている町内やJR金光駅等に對し、お礼(感謝)の気持ちを清掃という形で表す」「登下校のマナーについて考える機会とし、学園の仲間が毎日清掃することによってゴミを捨てない、迷惑をかけないという意識を各々に育てる」が目的で、クラス、部、生徒会事務局が各単位でチームを作り、試験中を除き一日おきに連続して金光駅から学園までの主に通学路を中心に清掃活動している。町内の方にも温かい言葉をかけていただき、どのチームも一生懸命取り組んでいる。

各委員会の動きとしては、評議員会は三役からの提案で校則違反について考えることにした。今後、各クラスにアンケートをとり、生徒同士で校則を守る意識を高める方法について検討する予定である。

《高校生生徒会》
体育会 9月22日(金)に開催された。

し、多くの来場者に体験して頂いた。
《茶道部》 ほつま祭では、「良寛さまの思いやりの心」をテーマに茶会を行った。生徒は緊張しながらも、日ごろの練習の成果を発揮した。

《書道部》 ほつま祭にて書道展覧会を実施した。古典臨書の表装作品や色紙百人一首を一首ずつ並べた大作などが並んだ。ほつま祭K.O.P.のオープニングで書道パフォーマンス「輪」を実施した。第63回岡山県児童生徒書道展で中2赤沢梨史が山陽新聞社長賞を受賞。第85回全国書画展覧会で中2赤沢梨史が筆都大賞を受賞。第17回豊岡全国かな書展にて中1山田紋歌が入選を受賞。第54回創女全国競書大会で高2坂口小枝が学年優秀賞、中2赤沢梨史が大会委員長賞、高2塚本瑠菜、高1小寺彩巴が創女書道会奨励賞を受賞した。

《音楽部吹奏楽団》 7月18日(金)はマスカットスタジアムにて、野球応援演奏を行った。7月21日(金)から、7月30日(日)まで、Texas Bandmasters AssociationならびにArkansas Bandmasters Associationに参加するための訪問演奏を行った。「ハリウッド万歳」[BACKSTAGE PASS]

雨が降り、グラウンド状態は良くなかったが、すべてのプログラムを実施することができた。オーストラリアのラッドフォードカレッジの生徒も一緒に参加した。様々な競技で熱戦が繰り広げられ、橙ブロック(3年2・4・6組)が優勝、赤ブロック(3年1・3・5・7組)が第2位、黄ブロック(2年1・3・5・7組)が第3位となった。

《秋季球技大会》 予定されていた10月19日(木)が雨天のため順延となり、台風が通り過ぎた直後の10月24日(火)に1年生・2年生で実施した。ソフトボール、テーパーボール、フットサル、ドッジボールの4種目が行われ、1年生は3組が、2年生は7組が優勝した。

《新聞部》 9月にはほつま新聞202号と教育実習生紹介号を、10月には体育会速報を発行した。現在ほつま新聞203号の作成をすすめている。

《天文部》 8月、さつきっ子科学教室では、月の模型製作、夏の星座や惑星の観望などを行った。また、夏合宿を弥高山で実施し、ベルセウス座流星群の観測や写真撮影を行った。

9月、ほつま祭では、展示・プラネタ

[UNDERTOW]「愁陽の路」[DON QUIXOTE]「吹奏楽のためのコラーージュ」の第1・3・5楽章、ポップスステージと題して「YMCA」カーペンターズ・フォーエヴァー「ユーロビート・デイズニームドレー」合唱曲「群青」[SORAN]「アンコールに「星条旗よ永遠なれ」を演奏した。7月30日(日)は1日入学にて、中学1年生と高校3年生の生徒で部活動体験の手伝いをし、「GUTS」を演奏した。8月20日(日)には、金光町民会館にてアメリカ訪問の報告演奏会を行った。「ハリウッド万歳」[秋陽の路]「吹奏楽のためのコラーージュ」の第1・5楽章を演奏した。その後、中学1年生による「GUTS」[世界に「つだけの花」を演奏しデビューステージとなった。アメリカ訪問のプレゼンをしたのち、「YMCA」合唱曲「群青」[カーペンターズ・フォーエヴァー]「アンコールに「星条旗よ永遠なれ」を演奏した。8月26日(土)は同心幼稚園にて訪問演奏を行った。「翼をください」[手遊び歌メドレー]「同心幼稚園園歌」などを演奏した。9月10日(日)はほつま祭にて「カーペンターズ・フォーエヴァー」[夏色]「Don't stop me now」

リウム・天文台公開に加えて、展示会場で、天文台の太陽の様子をディスプレイに写して公開するなど、新たな取り組みも実施した。

《科学部》 7月17日に鴨方ビックハットで行われた「科学の祭典」に参加した。カルメ焼きのブースを出展し、多くの方に体験して頂いた。

8月1日、2日と山口県美祢市にて合宿を行った。合宿では、秋吉台のある美祢市の特徴的な地質について学び、化石の発掘にチャレンジすることもできた。

ほつま祭では、合宿報告などを展示するとともに、割れないシャボン玉、マープリング、プラバンのブースを設け、多くの方に楽しんで頂くことができた。

《生物部》 7月31日・8月1日(月・火)に岡山県津黒高原にて夏合宿を行った。津黒高原を散策し、岡山県北部の植生について学んだ。オオサンショウウオの調査・保護活動をしている講師の先生を招き、オオサンショウウオについて学ぶとともに、津黒川での生態調査に参加した。11月11日・12日(土・日)で開催された「科学の祭典 倉敷大会」に参加した。「煮干しの解剖」が体験できるブースを出展

「星条旗よ永遠なれ」を演奏した。9月11日(月)は金光小学校にて訪問演奏を行い、「金光小学校校歌」[ハリウッド万歳]「吹奏楽のためのコラーージュ」の第1・5楽章「365日の紙飛行機」[夏色]を演奏し、楽器紹介や指揮者コーナーを行ったあと、「YMCA」[恋]合唱曲「群青」[Don't stop me now]「星条旗よ永遠なれ」を演奏した。9月22日(金)は高校体育会にて高校生とラッドフォードカレッジの生徒を交えて「プロモーション」[学園歌]「応援歌」[得賞歌]などを演奏した。10月1日(日)は中学体育会にて中学生が「プロモーション」[学園歌]「応援歌」[得賞歌]などを演奏した。10月6日(金)は120記念館大講義室にて中国高校生訪問団への歓迎演奏を行い、「シロクマ」[365日の紙飛行機]「YMCA」を演奏した。11月4日(土)は倉敷市民会館で開催されたジャズストリート2017に参加して、「シロクマ」[YMCA]「ムーンリバー」を演奏した。
《音楽部コーラス》 7月22日(土)金

光学園子ども園の夏祭りによんでいただき、子供たちに歌を披露した。途中、一緒に手遊びなどとして交流することもできた。その後、場所を移し、金光町の福永・宮東地区の夏祭りにも出演した。地区の方のご厚意でその後もお祭りにも参加させていただいた。

7月31日(月)～8月2日(水)で夏合宿を行った。2日目の夕方には保護者方がバーベキューを盛大にしてください、とても賑やかなものとなった。3日目はホールでのリハーサル。緊張感をもって臨むことができた。

8月6日(日)サマーコンサート2017を玉島文化センター大ホールにて開催した。今年は演奏会全体を「ミラクルうたの魔法」と題し、様々な歌をステージで披露した。第1ステージは中高男女様々な形式での合唱。そして最後に3月に福島県相馬市を訪問し、震災学習をしたメンバーによる報告をし、全員で「群青」を力強く歌った。第2ステージはOB・OG・現役合同ステージ。昨年を引き続き、北川昇先生による委嘱作品「こころの水面」「刹那ながれ星」を新たに発表した。第3ステージは企画ス

テージ。劇仕立ての演出に歌やダンス、チアにカラーガードと部員は精一杯のステージを作り上げた。

9月10日(日)ほつま祭での発表があった。初めてカラーガードもほつま祭で披露。新たなメドレーも加え、新体制でのスタートを無事終えることができた。

《文芸部》7月31日(月)から2泊3日で校内合宿を行った。親睦を深めつつ、作品執筆に没頭し習作集を制作、批評会を行うことで技術の向上に努めた。ほつま祭では文芸誌「榴槤火」を販売し、無事に完売した。9月24日(土)には高文連文芸部会主催の「高校生文芸道場おかやま」に3名が参加した。散文分科会では他校の生徒と交流を深めながら、創作のワークショップに取り組んだ。同会に先立って実施されたコンクールの散文部門には6名が作品を応募し、高3滝口道雄が入選となった。同作品は第19回高校生文芸道場中国ブロック大会にも出品し、優秀賞を受賞した。校内では月ごとにテーマを設けて作品を執筆。月例集にまとめ、批評会を行うことで互いに研鑽している。

《高放送部》高校放送部では、9月に行

われたほつま祭や体育会で放送を務め、臨場感あふれるアナウンスで、会場の雰囲気盛り上げた。創立123年記念式では、高2岡本圭織が司会を担当し役割をしっかりと果たした。また、11月19日に就実高校で開催された第41回岡山県高等学校総合文化祭放送文化部門発表会兼第41回岡山県高等学校秋季放送コンテストで、高1黒川麻衣子が朗読部門、山本幸歩と内村綾乃がアナウンス部門に出演した。

《中放送部》中学放送部では、高校生と一緒にほつま祭でアナウンスや機材操作などをこなした。中学一年生にとっては初めての本格的な行事での活動だったがよく頑張っていた。10月の体育会では中学生だけでアナウンスや音響を務め、臨機応変に対応しながら会を盛り上げることにできた。

《中・高美術部》中学美術部は、12月の岡山県中学美術展・金光キッズフェスティバルの参加に向けて制作を頑張っている。高校美術部は、岡山県高校美術展(2月)に向けての作品制作に取り組んでいる。

《高陸上競技部》
全国大会

・全国高校総体(山形インターハイ)の400mリレーに乾俊介(400mにも出場・大原健太郎・塚本航平・谷野光琉(三段跳にも出場)が出場した。男子8種競技に山下朋紀(110mハードルにも出場)が出場して3位に入賞した。

・日本選手権リレー(横浜)の男女混合1600mリレーに岡山県選抜選手として塚本航平が出場した。

・U17日本選手権(愛知)の110mハードルに山下朋紀が出場して3位に入賞した。

・全国高校選抜(大阪)の8種競技に山下朋紀が出場して5位に入賞した。

・国民体育大会(愛媛)の110mハードルに山下朋紀が出場した。

中国大会

・中国高校新人(山口)の110mハードルに山下朋紀が出場して1位。眞田明日香が砲丸投で2位。上川滉太が5000m競歩で3位。土屋健太郎がやり投げで4位。谷野光琉が三段跳で5位。清水美沙が5000m競歩で6位に入賞した。

岡山県高校選手権大会の100m・200mに

大原健太郎が出場して共に8位。乾俊介が200mで2位。谷野光琉が100m6位。三段跳で2位。土屋健太郎がやり投げで4位。大島徹也が5位。塚本航平が400mで2位。眞田明日香が砲丸投で3位。清水美沙が5000m競歩で3位。上川滉太が5000m競歩で3位。入賞した。

岡山県高校新人の400mリレーで塚本航平(400m1位・200m3位)・谷野光琉(三段跳2位・100m4位)・六原侑哉(走幅跳5位)・山下朋紀(110mハードル1位・400mハードル1位)。土屋健太郎がやり投げで3位。眞田明日香が砲丸投で1位。大島徹也がやり投げで5位。清水美沙が5000m競歩で3位。上川滉太が5000m競歩で3位。1600mリレーで眞清晋吾・田所聖梧・塚本航平・山下朋紀が7位に入賞した。

選抜合宿など
・オリンピック育成選手(日本陸連)に山下朋紀が選出された。

・U18中国四国選抜合宿(香川)に山下朋紀・塚本航平・上川滉太・眞田明日香・土屋健太郎が選出された。

《中陸上競技部》
県大会

岡山県秋季記録会の100mで谷本きなりが3位。西森翔真が走幅跳で6位に入賞した。

岡山県秋季大会の110mハードルで安福柙汰が2位。走幅跳で6位。西森翔真が走幅跳で4位。110mハードルで6位に入賞した。

岡山県中体連合宿・中国地区合宿(山口)に安福柙汰が選出された。

《中野球部》7月10日にどんぐり球場などで行われた備南西地区夏季総体は、代表決定戦では鴨方中学校に10-1で勝利し、5年連続10度目の県大会出場を決めた。7月26日、27日、28日にたけのこ球場、岡山県営球場、倉敷市営球場で行われた県総体は、1回戦久世中学校に10-4で勝利し、2回戦山南中学校に8-2で勝利し、準々決勝で加賀中学校に4-13で敗れ、ベスト8となった。8月2-3日に総社球場で行われた総社市長杯では、1回戦で総社東中学校に0-0で特別延長でも決着がつかず、抽選で勝利したが、準決勝で総社中学校に0-1で敗

れた。

新チームとなって、10月14、17日に笠岡市営球場などで行われた備南西地区秋季大会では、1回戦笠岡東中学校に7-0で勝利し、2回戦は井原中学校に2-2特別延長の末2-1で勝利し、代表決定戦では高屋中学校に5-3で勝利し、6年連続の県大会出場を決めた。11月5日にエイコンスタジアムなどで行われた岡山県秋季大会では、1回戦灘崎中学校に7-0で勝利したが、2回戦成羽中学校に1-8で敗れ、ベスト8となった。

《ラグビー部》 7月23日(日)に高体連夏季強化練習会に参加。新チームとして初めての試合を経験した。8月18日(金)～20日(日)には校内合宿を実施。卒業生や外部コーチの参加を得て、充実した合宿となった。9月9日(金)～11日(日)には高1原田将樹がU16中国プロクトレセンにU16岡山選抜として参加した。9月18日(月)には岡山県高等学校ラグビー選手権大会に参加。1回戦で玉島に0-102で敗れた。10月29日(日)には全国高等学校ラグビーフットボール大会岡山県予選会に参加。合同B(高松農業・鴨方)に18-22で惜敗した。

体共に予選敗退、3年生の県総体への出場は叶わなかった。

8月、第21回ワコースポーツ・文化振興財団杯中学校ソフトテニス大会に出場、中2藤井・吉田ペアが優勝した。

9月、第30回井原市中学生招待ソフトテニス大会に3ペア出場、藤井・吉田ペアがベスト16になった。

10月、備南西地区中学校秋季総合体育大会は、個人で藤井・吉田ペアが準優勝、県大会への出場権を獲得した。団体では、予選0勝2敗で敗退した。

11月、岡山県中学校秋季ソフトテニス大会個人戦に藤井・吉田ペアが出場するも、初戦敗退、県大会のレベルの高さを痛感した。

《高男子ソフトテニス部》 8月19日(土)20日(日)、水島緑地福田公園テニスコートで高梁川流域高等学校ソフトテニス大会がおこなわれた。個人戦には2ペア出場したが、いずれも初戦で敗退した。団体戦は1回戦で倉敷古城池Bに0対3で敗れ、こちらも初戦で敗退した。

9月23日(土)は岡山県新人ソフトテニス選手権大会(ダブルス)の備西地区予選会が玉島の森テニスコートでおこな

《中男子ソフトテニス部》 7月8～10日

に井原運動公園で行われた備南西地区総体では、個人戦に6ペアが出場し、畑地・小田原ペア、岡田・石丸ペアがベスト8で県大会の出場権を獲得。団体戦では予選リーグで笠岡東中学校に3-0、里庄中学校に2-1で勝利し、決勝トーナメントで鴨方中学校に2-1で勝利した。決勝戦では新吉中学校に0-3で敗退したが、準優勝で県大会出場を決めた。7月22・23日に岡山市浦安総合公園で行われた県総体では、個人戦で畑地・小田原ペア、岡田・石丸ペアが1回戦は勝ち上がったが、2回戦敗退。団体戦では岡山中央中学校に高村・田中ペアが勝利するも、1-2で初戦敗退であった。7月29日・8月5日に笠岡総合スポーツ公園・井原運動公園で行われたチャレンジカップでは、23ペアが出場し、I部で高村・田中ペアが準優勝、畑地・小田原、小野敦片岡ペアがベスト8、II部で山名・磯部ペアが準優勝であった。8月8～10日に合宿を行い、技術向上を目指した。中3はここで中学引退となった。新チームになって8月11日に笠岡総合スポーツ公園で行われたワコースポーツ・文化振興財

われた。5ペアが出場したが、そのうち金川・板阪組が4回戦で敗れたものの敗者復活戦で勝利して11位となり、県大会への出場権を獲得した。そして11月4日(土)には県大会(団体戦)が浦安総合公園でおこなわれたが、1回戦で林野高校に1対2で敗れ、初戦で敗退した。続いて11日(土)におこなわれた県大会(ダブルス)には地区予選で出場権を獲得した1ペアが出場したが、初戦で美作高校のペアに敗れた。

《高女子ソフトテニス部》 8月8日・9日に備前テニスセンターで行われた、岡山県高校ソフトテニス交流大会に参加。8月19日・20日に福田公園テニスコートで行われた高梁川流域高校ソフトテニス大会《個人・団体》では、個人戦に出場した2ペアは3回戦までに敗退。団体戦は1回戦で総社南Bに勝利したものの、2回戦で倉敷商業Aに敗れた。9月23日に玉島の森テニスコートで行われた岡山県高校新人大会備西地区予選《個人》に3ペアが出場し、塚岡・向ペアが準優勝、佐々木・安部ペア・津田・藤井ペアが敗者復活戦を勝ち抜いて、県大会出場権を獲得。11月4日に浦安総合公園テニ

スコートで行われた岡山県高校新人ソフトテニス大会《団体》では、1回戦で笠岡商業に勝利したものの、2回戦で倉敷南に敗れた。11月10日・11日に福田公園テニスコートで行われた岡山県高校ソフトテニス新人大会《個人》に地区予選を突破した3ペアが出場したが、3回戦までに敗退。

《中卓球部》 7月23、24日に岡山県総体に出場した。男子団体では1回戦で富山に0-3で敗れた。

9月3日にワコー杯に参加した。男子団体では金光学園Aが優勝、金光学園Bが準優勝であった。男子個人では中3山本が優勝、中2内海と東がベスト8、中3板垣と中2北村と中2原田がベスト16に入った。

9月16、17日に備西支部合同練習会に出場した。男子団体では5戦全勝で1位であった。男子個人では原田が2位、北村がベスト4、中2島村と中2関藤と東がベスト8、内海と中2高戸がベスト16に入った。

10月14、15日に備南西地区秋季大会に出場した。男子団体では決勝で井原に1-3で敗れたが2位で県大会の出場を決

団杯では10ペアが出場し、西原・廣江ペアがベスト4に入った。8月26日にびんご運動公園で行われた天野カップでは団体4チームが出場し、Aチームが準優勝、Bチームがベスト4、Cチームがベスト8に入った。10月15・16日に井原運動公園で行われた備南西地区秋季総体では、個人戦に6ペアが出場し、西原・廣江ペアがベスト8で県大会出場権を獲得。団体戦では予選リーグで大島中学校に2-1で勝利した。決勝戦では鴨方中学校に0-2で敗退したが、準優勝で県大会出場を決めた。11月5・6日に備前総合運動公園で行われた県秋季大会では、個人戦で西原・廣江ペアが初戦敗退。団体戦では香和中学校に飯山・西山ペアが勝利するも、1-2で初戦敗退であった。11月18日に井原運動公園で行われたチャレンジカップでは、I部で西原・廣江ペアが準優勝、秋本・村上ペアがベスト4、II部で山名・磯部ペアが準優勝であった。

《中女子ソフトテニス部》 7月、備南西地区中学校夏季総合体育大会は、3年生全員一丸となって頑張ったが、個人・団

めた。男子個人では東が3位、北村がベスト8、中2瀬良と原田がベスト16に入り、県大会の出場を決めた。

11月5、6日に岡山県秋季大会に出場した。男子団体では予選リーグで倉敷北に3―2、中道に1―3、妹尾に0―3の2勝1敗でベスト16であった。男子個人では東がベスト32、北村と瀬良と原田は1回戦敗退であった。

《高卓球部》 7月15日に団体予選(少年の部)に出場し、男子シングルスで高2升本がベスト32に入った。

8月16、18日に西日本高校オープン新人研修に参加した。男子団体予選リーグで尽誠学園に0―3、鶴翔に3―2、今治西に0―3、生駒に2―3で4位となり、4位トーナメントで観音寺第一に3―2、草津東に1―3、高松中央Bに1―3、岡山東商に3―2、坂出工業に3―2、岡山理大附属に3―1、多度津に3―0であった。

8月20日に高校夏季大会に出場し、2年生男子シングルスで升本がベスト8、高2古賀がベスト16に入った。

9月2日に全日本選手権岡山県予選会(ジュニアの部)に出場し、男子シング

ルスで升本がベスト32に入った。

10月28、29日に岡山県高校秋季卓球大会に出場し、男子団体予選リーグで津山工業に3―1、高梁に3―0で勝ち、決勝トーナメント1回戦で倉敷鷺羽に3―0、2回戦で大安寺中等に3―2、3回戦で岡山後楽館に3―1、準々決勝で岡山商大附属に3―2で勝ち、準決勝で関西に0―3で敗れたが、順位決定戦で笠岡工業に3―2で勝ち、3位に入賞した。

《中サッカー部》 7月8日に矢掛運動公園で地区大会が行われた。1回戦で寄島中学校と対戦し、0対3で負けた。中学校3年生はこの大会で引退となった。

9月16日に寄島三ツ山公園で支部大会が行われた。金浦中学校に0対2で負け、高屋中学校に4対1で勝ち、寄島中学校に1対1で引き分け、矢掛中学校に0対8で負けた。

10月14日に笠岡陸上競技場で地区大会が行われた。1回戦で金光中学校と対戦し、3対0で勝ち、2回戦で鴨方中学校と対戦し、0対6で負けた。

11月12日に勝山中学校と久世中学校で県北交流戦が行われた。勝山中学校に0対2で負け、ヒーロに4対1で勝ち、新

見第一中学校に1対1で引き分け、琴浦中学校に0対4で負け、久世中学校に0対0で引き分けた。

11月19日に寄島中学校で金光ライオンズ杯が行われた。寄島中学校に0対2で負け、連島中学校に1対4で負けた。

《高サッカー部》 高円宮杯U-18サッカーリーグ2017OKAYAMAチャレンジリーグ7月8日対矢掛(0―0) 7月16日対総社(1―2) 7月17日対美作(1―0)。後期は上位リーグに進出する。8月3日に練習試合を行った。対理大附(3―3)・(2―0)。以下はIPUフェスティバルの結果である。8月8日対IPU金光藤蔭B(0―1) 対明石商業C(0―5)。8月9日対三瀬A(0―1) 対岡山工業B(0―6)。8月10日対洛西A(4―0) 対関西A(0―2)。

岡山県高校サッカー選手権大会(一次)トーナメントは1回戦シードで2回戦の対創志学園は(4―1)で勝利し3回戦の対芳泉は(0―5)で敗退。ベスト28で本大会を終えた。高円宮杯U-18サッカーリーグ2017OKAYAMAチャレンジリーグ(後期) 9月23日対津山東(1―2) 9月24日対興陽(4―0) 10月7

日対城東(0―0) 11月5日対総社(3―0) 11月12日対岡工B(4―1) 11月19日対操山(1―5) 11月23日対笠岡(1―0)でリーグ2位となり2部から1部への昇格が決定した。

《中柔道部》 7月8日に里庄武道館で地区大会が行われ、男子団体戦は高屋中に敗れ、第2位であった。男子個人戦では60kg級で中3大谷武市が第1位になるなど多くの生徒が活躍した。

7月23日、24日に岡山武道館で総体が行われ、男子団体戦は1回戦で津山西中に勝ったが、続く2回戦で福浜中に敗れた。

10月14日に里庄武道館で秋季地区大会が行われ、男子団体戦は笠岡東中に敗れ、第2位であった。男子個人戦では50kg級で中2坂田迅が、66kg級で中1横山莉生が、90kg級で中2藤木裕太がそれぞれ第1位となるなど、多くの生徒が活躍した。

11月5日、6日に岡山武道館で秋季県大会が行われ、男子団体戦は津山西中に敗れた。男子個人戦では73kg級で中2趙壮済がベスト8になった。

《高柔道部》 6月に本校柔道場で、高

3戸田勝己・黒川拓馬の引退に伴い、追い出し試合を行った。

11月3日、4日に岡山武道館で新人大会が行われ、男子団体戦はあと一歩のところまで中国大会出場を逃した。女子団体戦は勝間田高校に勝ったが、続く2回戦で創志学園に敗れた。男子個人戦は73kg級で高2虫明春哉がベスト8に、90kg級で高1森永慶之がベスト8になった。女子個人戦は無段の部で高1宮川靖世が第3位になった。また高1宮口史穂、宮口史織がそれぞれベスト8になった。

《中・高柔道部》 8月6日から9日までの3泊4日で、本校柔道場において合宿を行った。多くの保護者の方やOB、他校の先生や選手が集まっていた。無事に行うことができた。8日には恒例のBBQを保護者・OBの協力のもと実施できた。大変お世話になり、ありがとうございました。

《中剣道部》(備南西地区大会) 7月8日(土)笠岡総合体育館サブアリーナで開催。男子団体試合は先鋒より浅野優斗、小林芳樹、田中康介(以上1年)、亀山裕汰、新谷理駆(以上3年)と三谷悠太(3年)で臨み、優勝。男子個人試合は新谷

が優勝。田中、亀山が1回戦、小林が2回戦、浅野が3回戦敗退。この結果、団体と、個人で新谷が県大会の出場権を得た。

《段級審査会》 7月9日(日)倉敷武道館で開催。亀山が2級、浅野が初段に合格。

《岡山県段別選手権大会》 7月16日(日)宮本武蔵顕彰武蔵武道館で開催。二段の部で新谷が2回戦敗退。

《岡山県中学校総合体育大会》 7月21日(金) 22日(土)宮本武蔵顕彰武蔵武道館で開催。男子団体試合は1回戦で船穂中学に1対2で敗れる。個人試合は新谷が3回戦敗退。

《岡山県勝抜大会》 8月5日(土)岡山武道館で開催。2回戦、操南中学に負ける。

《段級審査会》 8月6日(日)玉島武道館で開催。田中が初段に合格。

《段級審査会》 9月3日(日)笠岡総合体育館サブアリーナで開催。亀山が1級に合格。

《備南西地区秋季大会》 10月14日(土)笠岡総合体育館サブアリーナで開催。男子団体試合は1回戦、木之子中学に負け

る。男子個人試合は小林が1回戦敗退、浅野が3回戦敗退でベスト8。田中が準決勝敗退で3位となり、浅野と田中が県大会の出場権を得る。

《岡山県秋季大会》11月5日(日) 6日(月)宮本武蔵顕彰武蔵武道館で開催。男子個人試合で、浅野が1回戦、田中が2回戦敗退であった。

《浅口市剣道大会》11月19日(日)天草公園体育館で開催され、男子団体試合は1回戦、寄島剣道SP少年団に負ける。個人試合は亀山が1回戦、浅野、小林、新谷が2回戦敗退。田中が3回戦敗退でベスト8であった。

《高剣道部》《岡山県段別選手権大会》7月16日(日)宮本武蔵顕彰武蔵武道館で開催。二段の部で、市川真広(1年)、池田弦輝、日名啓介(以上2年)が2回戦、石原湧大(2年)が3回戦敗退であった。《段級審査会》8月6日(日)日名石原が参段に合格。

《岡山県高校新人大会》11月4日(土) 5日(日)津山東体育館で開催。男子団体試合は1回戦で瀬戸高校に0対4で負ける。男子個人試合は日名が1回戦敗退。石原が健闘したが、4回戦敗退でベ

スト16であった。《中男子バスケットボール》9月16日に行われた合同練習会(シード決め大会)で、地区内のチームでハーフゲームの総当たり戦が行われ、全勝し10月に行われる地区大会での第1シードを獲得した。

10月14・15日に行われた地区大会では、笠岡東中に勝利し、決勝戦で鴨方中と対戦、勝利し、11月に行われる県大会への出場を決めた。11月5・6日に行われた岡山県大会では、一回戦で高島中と対戦し勝利するも、ベスト4をかけた倉敷東中との試合では敗れた。翌日に行われた5・6位決定戦では、奈義中と対戦するものの惜敗し、本大会をベスト8で終えた。

11月23日に行われた岡山県バスケットボール交歓大会では、1回戦で総社東中に勝利するも、東陽中には敗れブロック2位で終わった。

また、中学2年の富田直斗くんが、味の素ナショナルトレーニングセンターで行われた『U14 ナショナル育成キャンプ』のメンバーに選ばれ、9月から11月の3回のキャンプに参加した。

《中女子バスケットボール》7月8日・

9日に里庄中学校体育館で行われた備南西地区大会に出場し、準決勝で井原中と対戦。金光学園58―27井原中で勝利し、決勝は笠岡東中と対戦。金光学園51―42笠岡東中で勝利し県大会出場を果たした。

7月20―23日に行われた県大会では、一回戦岡山福田中63―30金光学園で敗退した。

新チームになり、1年生7人2年生9人となり、9月に行われた備南西地区大会では、一回戦寄島中25―88金光学園で勝利し、準決勝で鴨方中40―38金光学園で敗れ、県大会出場を果たすことができなかった。

《高男子バスケットボール》9月23日・24日に行われた第48回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会岡山県予選備南地区予選会に参加した。1回戦、倉敷翠松高校に78―41で勝ったが、2回戦、水島工業高校に63―53で敗れた。

11月18日から行われた、平成29年度第70回バスケットボール新人優勝大会備南地区予選会に参加した。1回戦、笠岡高校に59―40で勝ったが、2回戦、岡山龍谷高校に41―72で敗れ、ブロック3位決

定戦に進んだ。県大会出場がなかった決定戦では、倉敷天城高校に60―51で勝ち、2年ぶりに県大会出場を確定した。さらに、地区の7位―9位決定リーグで、総社南高校に62―59、玉島商業高校に57―38で勝ち、地区7位で県大会へ出場することが決まった。

《高女子バスケットボール》9月23日・24日のウィンターカップ備南地区予選に参加した。新チームは高2が4人、高1が5人の計9人でスタートし、これが初めての公式戦となった。初戦は新見高校に44対37で勝ち、ブロック決勝で倉敷商業高校に36対73で負け、県大会への出場は叶わなかった。11月18日・19日に新人戦備中予選会に参加した。初戦は笠岡高校に59対36で勝ち、続く2回戦で倉敷商業高校に36対82で負け、県大会出場をかけた倉敷鷺羽高校と対戦し、71対34で勝った。25日に7―9位決定トーナメントが行われ、倉敷青陵高校に55対35で勝ち、笠岡商業高校に36対42で負けたが、得失点差で備南地区7位という結果を収めることができた。

《中男子バレーボール部》平成29年度後半の戦績/11月に行われた県新人大会

は4年連続6回目の優勝を果たした。まだまだ力不足を感じながらチームの底上げを課題に冬季練習につなげたい。2月には中国新人大会が広島で開催予定。夏も皆さんのおかげをいただきながら、日々精進してまいりたいと思います。

《中女子バレーボール部》7月8・9日に行われた夏季備南西地区大会に笠岡西中学校との合同チームで臨み、1日目予選リーグで笠岡東中、美星中に勝利した。2日目の決勝トーナメントでは矢掛中、芳井中、井原中に勝利し、優勝した。7月23―25日にかけて行われた県総体では多津美中、総社中に勝利したものの、岡山理科大附属中に敗れ、ベスト16という結果であった。

《高男子バレーボール部》8月に行われた備南夏季バレーボール選手権大会では、決勝で岡山龍谷高校に勝利し、優勝した。10月に行われた国民体育大会に高3の中山翔太、神原寛加が岡山県選抜選手として出場。ベスト16になった。11月に行われた岡山県バレーボール選手権大会では、3回戦高梁日新、準々決勝岡山龍谷、準決勝玉野光南に勝利し、決勝戦

岡山東商業に敗れた。全国大会を目標に頑張っていきます。

《少林寺拳法部》7月30日にアメリカ合衆国カリフォルニア州サンマテオ郡サンマテオ・カウンティ・イベントセンターにおいて開催された、少林寺拳法世界大会inカリフォルニアに出場した。男子単独演武級拳士の部で河村征(U3)が4位に入賞した。

8月5日―7日に宮城県塩竈市の塩釜ガス体育館において開催された南東北総体に出場した。女子自由単独演武の部で井上日和(U3)が5位に入賞した。

8月19日―20日に石川県金沢市のいしかわ総合スポーツセンターにおいて開催された第11回全国中学生少林寺拳法大会に出場した。男子単独演武の部に難波拓也(L3)・坂本莉来(L3)・塩路雄也(L2)が、女子単独演武の部に塩谷明美(L3)・能勢采奈(L3)・難波朋楓(L3)が、女子組演武の部に虫明紗桜理(L2)・難波日奈子(L2)が出場したが、いずれも準決勝に進出できなかった。また、女子団体演武の部(塩谷・能勢・難波朋・虫明・難波日・笠原・山田・原田)も健闘したが、決勝進出はならなかった。

11月4日に岡山工業高校で行われた、第28回岡山県高等学校少少林寺拳法新人大会に出場した。男子自由単演武の部で、佐藤謙成(U2)が第一位、衛本廉温(U2)が第三位に入賞した。また、女子自由単演武の部で森藤由衣(U2)が第三位、米村咲南(U1)が第六位、女子規定単演武の部で塚本陽依吏(U1)が第二位に入賞した。

佐藤謙成・塚本陽依吏の2名は、来年3月に香川県坂出市で行われる第21回全国高等学校少少林寺拳法選抜大会への出場権を得た。

《木綿崎ボランティア部》 ほつま祭にて東日本大震災復興支援の小物販売を行った。小物販売の収益は震災で修学が困難となった子どもの支援金にあてられる、東日本大震災みやぎこども育英募金に寄付した。同時開催としてタイの少数民族を支援するハートフルトレードプロジェクトも実施した。10月2、7日に金光駅前とマルナカ金光店にて赤い羽根共同募金ボランティアを実施した。また、「NHK海外たすけあい街頭募金」に参加した。

《ダンス部》 今年度は、高校2年生が、

7月下旬に行われた水島港まつりのダンスコンテストに参加をした。また、8月中旬に行われた「あさくち花火大会」にて、学年ごとのダンスやフィナーレを、部員全員でダンスを披露した。9月は、メインイベントであるほつま祭でのステージを、部員全員でやり切った。さらに、中学1年生・2年生は、12月に行われる「金光キッズフェスティバル」に参加する予定だ。

《バドミントン同好会》 2学期に新たに部員を迎え、総勢25名で活動している。週1回という少ない回数だが、練習後に有志が、夜に行われる社会人のバドミントンサークル(学園教員主催)に参加するなど、積極的に活動している。

《花道同好会》 毎週火曜日に宗教教室で兼信先生の指導の下、熱心に稽古している。

《数学同好会》 ほつま祭において、「数学が数楽に2017」のテーマで展示を行なった。

《歴史研究同好会》 各自テーマを決め、研究を進めた。

《かるた同好会》 週2回、宗教教室で競技かるたの練習を行った。2カ月に1

程度程度の割合で、岡山県かるた協会長の長原さんに指導をして頂いた。7月23日(日)に滋賀県立武道館で行われた第39回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会に高2谷口史佳が出場し、1回戦は不戦勝だったが、2回戦で敗退した。

表紙の言葉

杉尾 萌夏

私は「クリスマス 馬小屋ありて 馬がすむ」という句を絵にしました。

この絵の中で一番工夫した所は、馬と少女の周りの色づかいです。馬と少女は小屋の中にいるので、窓の色を最初はうすい青色にしていたけど、それだと少し寒い感じの色になるので少し緑と青を混ぜた色にしたいのまわりにぬって、少し赤やオレンジを混ぜた色をとくに馬や少女のまわりにぬることで、馬と少女が目立つようにしました。

この絵で、一番苦労した所は、句と木を彫るときです。句を彫る時、この句は「馬」や「屋」など画数が多い漢字があったので細い所がとてもし彫りにくかったです。また、木は葉のまとまりを彫るのが難しかったです。

この絵を見た人が、季節を感じ、「年が明けても、目標を持ってがんばっていいこと」と思ってもらえたらと思います。

学園だより

留学生来校 6月26日～7月27日、アメリカから、YFU短期留学生アニー・パンさん、ヴィブハ・シバクマールさんを高校に受け入れた。

終業式 高3は7月19日に、その他の学年は27日に、1学期終業式が行われた。式後部活動での県大会上位入賞生徒及び中国大会出場生徒の賞状伝達式と全国大会出場生徒の壮行会も併せて行った。

授業・補習 7月20日～27日、中学が午前授業を、高1・高2が特別授業を、高3は補習を実施した。また、高3は8月24日～31日まで後期の補習を実施した。

個別面談 中高の全クラスで行われた。一学期を振り返り、夏休みの過ごし方や進路選択等について個別に懇談を実施した。

オープンスクール 7月30日、PAR T1として第19回目的一日入学が行われ、小学生や中学生および保護者を合わせて

1,215名の参加があった。授業体験や部活動体験を通して、金光学園での生活の一部を楽しく体験した。また、9月9・10日、PART2のほつま祭でも多くの小学生が参加した。10月1日、PART3の中学体育会はくすたま割りに参加した。

金光学園杯小学生招待バレーボール大会 9月3日、第15回のバレーボール大会がほつま体育館で行われた。20チーム(選手約200名)の参加があり、レベルの高い熱戦が繰り広げられた。

教職員夏季研修 8月22・23日、全教職員が参加して31回目の夏季研修が行われた。初日はベネッセコーポレーション渡邊慧信氏による『教育・入試改革に向けたこれからの高校教育を考える』というテーマのプレゼンを聴き、学年会議や教科会議の中で討議を行った。2日目は各会議で議論された内容を共有し、全体会の中でさらなる討議を行った。実り多き研修会となった。

始業式 中学、高1・2は8月24日に、高3は9月1日に2学期の始業式が行われた。校長式辞の後、生活課からの諸注意、生徒会課から夏休み中の部活動及び生徒活動の表彰があった。

宿題テスト 中学は8月25日に、高1・2は8月24日～26日に、高3は9月1日にそれぞれ実施した。

教育実習 9月1日から14日あるいは21日までの期間、卒業生3名が2週間または3週間の実習を行った。

街頭交通指導 9月1日から6日まで教員が通学路に立ち、交通安全・交通安全ナーについての指導を行った。また、21日から30日まで「秋の交通安全県民運動」に合わせて指導を行った。

ほつま祭開催 9月9日、10日、「輪」(LKS) つながるきずな、つながる青春」をテーマに創立123年目のほつま祭が開催された。オープンスクール(両日開催)や友愛セール(日曜日)も多くの参加者で賑わいを見せた。

進路委員会 9月12日、22日、高3の教員が中心となって、指定校推薦の校内選考を行い、大学への推薦者を決定した。

霊地親睦の集い 9月18日、霊地各機関対抗の球技大会(バレーボール)が行われ、学園教職員が参加した。親睦を深めることができた。

姉妹校交流 9月20日～27日、豪州ラッドフォードカレッジの生徒11名を受

け入れた。生徒宅にホームステイをしつつ、授業や部活動の交流、広島・倉敷への研修を行った。

高校体育会 9月22日、雨天の中ではあったが、高校体育会がラッドフォードカレッジの皆さんの参加と共に、華やかに行われた。

教祖生誕前夜奉祝行事 9月28日、例年のように金光駅から本部境内まで教祖の生誕を祝う提灯行列が行われた。学園教職員も参加し、学園御輿を担ぎ行列を盛り上げた。

高校進学懇談会 9月27日、公立中学校の先生方を対象に平成30年度高校入試の説明等を行った。

塾対象入試説明会 9月28日、朝2時は全学年全クラスを授業公開し、その後の全体会では平成30年度の中学・高校入試などについて説明を行った。

進路学習 9月29日、高1は学部・学科ガイダンスを実施し、17の学問分野から講師を招いて説明をうかがった。10月13日、中2は講師に卒業生で和気町の地域おこし協力隊として活躍されている赤澤沙織氏（高53回卒）を招いて話をうかがい、将来の仕事を見据えた中学生時代

の過ごし方について考えた。11月14日、中3は高校からの学習活動に備えて進路適性検査を実施した。

進路講演 高2は9月29日、香川大学の山崎裕正先生による進路講演「『未来』を知って、「進路」を考える。合格へのアプローチを知る」を、高1と保護者は10月6日にベネッセコーポレーションの櫻井優一氏による講演「希望進路実現に向けて」をそれぞれ聴いた。

中学体育会 10月1日、晴天に恵まれ、中学体育会が開催された。華やかな踊りやマスケットが兄弟学級の団結力を示した応援合戦に彩りを添えた。

高2大祭奉仕 10月3日6・7限に金光教本部で清掃奉仕を行った。

探究Ⅱ課題研究校内発表会 10月4日に理系が数学、物理、化学、生物、天文の5つのゼミで、5日に文系が教育、日本語・日本文学、世界文化、現代社会の4つのゼミで研究した成果についてポスター発表を行った。

遥照登山 10月5日、中1は遥照山登山を行った。深まり行く秋の中、楽しいひとときを過ごした。

京都アメリカ大学コンソーシアムの来校

10月6日、浅口市国際交流協会が主催する京都アメリカ大学コンソーシアムの留学生19名が来校した。中2による歓迎会の後、部活動体験に行い、送別会では音楽部吹奏楽団・国際交流クラブと交流を深めた。

高3大祭参拝 10月10日、心の教育の一環として、高3生徒全員が金光教本部での生神金光大神大祭に参拝した。

金光学園杯小学生卓球大会 10月9日、第17回の卓球大会が小体育館で開催された。男女17チーム（122名）の参加があり、シングルスで男女別に優勝杯を競い合った。

性教育 7月13日、公設国際貢献大学校専任講師の内尾京子先生を招き、高2を対象に「責任ある性」をテーマに性教育を行った。中1は10月27日にDVD「正しく知る！二次性徴Q&A」「男女交際Q&A」を見て、アンケートに答え、感想文を書いた。11月10日に男女の身体の相違を理解し、お互いに尊重することを学んだ。

教育相談保護者会 10月14日、安原こずえ先生を講師に、5名の保護者と教育相談員とで交流会が行われた。

心の教育

10月20日に中1は金光道晴校長から中山亀太郎先生についての話を聴き、創立記念式を前にして金光学園の精神を学んだ。

中学・高校入試模擬テスト 10月21日、来春の中学校入試を受験する小学校6年生を対象に、11月3日、来春の高等学校入試を受験する中学3年生と学園の中学3年生（希望者）を対象に模擬テストを行い、多くの受験生が本番さながらに挑戦した。また高校の推薦入試受験希望者には面接を行った。その後、入試説明が行われ、それぞれに平成30年度入試についての説明を行った。

ジェネシス20中国高校生来校 10月20日、中国から28名の高校生が来校した。数学、漢文、音楽の授業を受け、中3各クラスと交流会を行った。放課後は部活動体験をし、送別式に参加した後、帰国した。

読書会 高1は11月10日に、高2は10月6日に、中3は11月24日に、中2は11月14日に、中1は11月21日にそれぞれ学年で希望の本を選び、各グループに分かれて、意見交換をした。

人権教育

中2は11月8日にビデオ

「ひめゆりの塔」を見て感想文を書いた。中3は10月14日にビデオ「どんぐりの家」を見て、感想文を書いた。また、11月10日に各クラスで感想文をもとに話し合いを行った。高1は11月14日に「ハンセン病 今を生きる」を見て、感想文を書いた。高2は11月11日、名古屋女子大学三宅元子先生から「ネット社会を上手に生き抜くために」という演題で講演をいただいた。

教科担当者会議 中1から中3まで、日頃の授業の様子や中間考査の結果についての情報が交換され、個々のすぐれた点や改めたい点が指摘検討された。

ロードレース 11月9日、中学校全体のロードレース大会が行われた。男子は4キロ、女子は2キロのコースをそれぞれ力走した。

EUがあなたの学校にやってくる 11月9日の7限目、ドイツ大使館よりハンズ・カール・フォン・ヴァテルン大使が来校され、高1探究クラス、高2文系探究クラス、希望者、保護者を対象に大講義室にて講演を行った。放課後には、国際交流クラブと希望者が大使を囲む会を行った。

11月16日、創立123年の記念式がほつま体育館で厳かに挙行された。生徒代表 藤澤友真さんの所願表明は、大変すばらしく後輩にとっても大変な元気を与えてもらった。式典後、萩原邦章氏（高24回卒）の記念講演が行われた。「目標を持つ」という演題の講演は、社会人、国際人としての視野を持つことの大切さを考える機会になった。今後の生活に大きな示唆を与えていただいた。

留学生来校 11月26日、豪州の姉妹校ラッドフォードカレッジから留学生としてターラ・ライオンズさんを受け入れた。1月7日まで滞在の予定である。

お祝い 新谷忠彦先生には岡山県私学教育功労者表彰を受賞され、お慶び申し上げます。久繁正人先生には7月9日に長女のご誕生、奥野公子先生には7月28日に長女のご誕生、高司和道先生には8月27日にご結婚、平川真太郎先生には10月28日にご結婚お慶び申し上げます。

お悔やみ 角田事務職員の御母堂には7月27日にご逝去、謹んでお悔やみ申し上げます。

高2修学旅行

北海道コース



オーストラリアコース



シンガポール・マレーシアコース

教室の窓から

「私、本当は〇〇になりたいんだけど、こんな私じゃ無理よね」
 「それな、私も～」
 ある日、将来なりたい自分をふと語っていた女子生徒たちのやりとり。このやりとりで感じたことは、彼女たちは「今の自分」の延長上で将来を見ているということだ。では、「今の自分」はどのように形づいていったのか。それは良くも悪くも自分自身ののだが、特に「過去の自分」であろう。
 ある日、次のような記事を見つけた。(一部変更)

今、確信していることがあります。それは、過去と現在と未来は常に同じ時空間の中で同時並行的に変化し続けていることです。今まで、
 過去 → 現在 → 未来
 と一直線に時間が流れていると思っていたことが、実際はそうではなく、

↑ ↑ ↑
 過去 現在 未来
 が3本の線で並行して進んでいるイメージです。だから現在を変えれば過去と未来も同時に変化するということになります。よく、過去は変わらないといいますが、それは出来事自体が変わらないだけであり、現在の解釈と反応を変えれば、過去のストーリーが大きく変わります。それによって過去のイメージを肯定的にも否定的にもできるということです。問題は、この過去を思い出すことによって今の人生が良くも悪くも制限されてしまっていることです。過去の記憶からくる制限によって現在が作られて、その過去の延長線上に未来を考えてしまっているから自分を小さく見てしまい、自信がないと思ってしまう方が多いです。しかし、本来はそうではありません。今の成長した自分で過去としっかり向き合えば、結局、過去の失敗だと思っていた事が発見や、学びだったと気づけます。今の自分で過去を見れば、過去に悩んでいたことが小さく感じるように、未来の自分から今を見れば、今ぶつかっている問題は大事なことではないのです。現在も未来からみたら過去になりますよね。だから先に夢の実現をして理想を手にした自分のエネルギーや考え方や、行動力を持って、その態度で現在を生きることによって、より早く理想の未来を現実にするできるようになります。

この記事を読んだとき、「なるほど!」と今までにないほど納得をしたことをはっきりと覚えている。大人になると「なんであのことで悩んでたんだろう」と、当時は高い壁に見えていたものが、実はそんなに高くなかったと認識できることが数多くある。また、当時からすると未来であった現在において、さらに高い壁に立ち向かっている。
 「解釈」が人に与える影響は良くも悪くも大きい。だからこそ、「事実」と「解釈」の違いを認識し、「解釈」に変更をかけることができれば、得られる結果も大きく変わってくるのではないだろうか。「過去のできなかった自分」で未来を悲観するのではなく、「未来の理想の自分」で今を丁寧に生きれば、より理想に近づきやすくなるのではないだろうか。
 無限の可能性を秘めている生徒たちが、今よりももっとそれぞれの理想を語り合い、互いに承認し、実現に向けて生活できるような環境・空間をこれからも目指していく。

編集後記

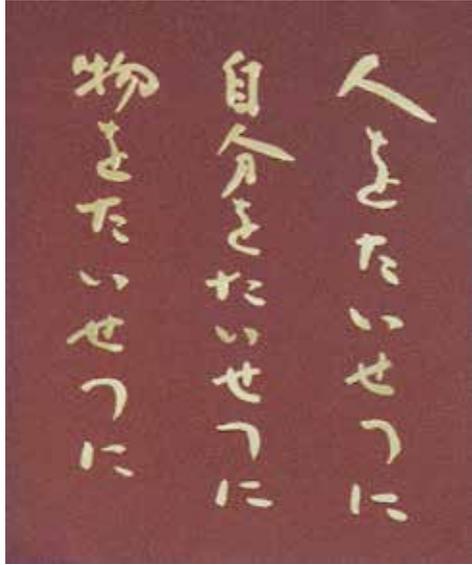
先日、生徒の小論文を読んでいて「ブラック企業」という表現が目についた。青のボールペンで傍線を引き、使わないようにと記入したことを覚えていた。もしも根拠を尋ねられたら、辞書に載っていないからと答えるつもりでいた。
 岩波書店の『広辞苑』が10年ぶりに改訂され、来年1月に第7版が刊行される。新たに「一万項目が追加される」とのことだが、その中の「ブラック企業」が含まれると知って驚いた。他にも「がつり」「のりのり」など若い世代で広く使われる口語や「スマホ」「ツイート」「婚活」など社会や技術の変化を受けた言葉が多数収録されるらしい。
 ちなみに、10年前の改訂で増えたものには、例えば「さくつ」と「逆切れ」「リベンジ」や「看護師」「グロバリゼーション」がある。小論文でいえば前者3つはもちろん使用に適さないが、後者2つについてはむしろ使わないと書けない場合もあるのではないだろうか。
 新しい言葉が生み出されるたびに日本語は豊かになっていく。状況や場面に合わせて、ふさわしい表現を選ぶようにしたいと思う。

平成29年12月13日印刷
 12月19日発行

編集者 金光学園やつなみ保護者会
 やつなみ編集部

印刷所 倉敷市船穂町船穂二〇九五一―一
 玉島活版所

発行所 浅口市金光町古見新田一三五〇
 金光学園内
 金光学園やつなみ保護者会



◎ほつま = 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。

「日本という国」の古異名の一つ。

創立後、生徒会や冊子の名に使用。

ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

.....
◎やつなみ = 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。

金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。

P T A機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。

人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに

<http://www.konkougakuen.net>

E-mail info@konkougakuen.net